

2025年度

教科概要

介護福祉科



東京YMCA医療福祉専門学校

目 次

領 域	教科名	年次	授業時間	ページ
人間と社会	人間の尊厳と自立	1年	30	1
	人間関係とコミュニケーションⅠ	1年前	30	2
	人間関係とコミュニケーションⅡ	2年後	30	3
	社会の理解Ⅰ	1年前	30	4
	社会の理解Ⅱ	1年後	30	5
	手話	1年	30	6
	家政学実習(栄養・調理)	2年	40	7
	就職実践演習Ⅰ	1年後	16	8
	就職実践演習Ⅱ	2年前	16	9
	学習支援演習Ⅰ	1年	60	10
	学習支援演習Ⅱ	2年	60	11
介 護	介護の基本Ⅰ	1年前	30	12
	介護の基本Ⅱ	1年前	30	13
	介護の基本Ⅲ	1年後	30	14
	介護の基本Ⅳ	2年前	30	15
	介護の基本Ⅴ	2年前	30	16
	介護の基本Ⅵ	2年後	30	17
	コミュニケーション技術Ⅰ	1年前	30	18
	コミュニケーション技術Ⅱ	2年前	30	19
	生活支援技術1(生活支援)	1年前	30	20
	生活支援技術2(居住環境)	1年前	30	21
	生活支援技術3(移動)	1年前	30	22
	生活支援技術4(食事)	1年後	30	23
	生活支援技術5(身じたく)	1年後	30	24
	生活支援技術6(排泄)	1年後	30	25
	生活支援技術7(入浴・清潔保持)	2年前	30	26
	生活支援技術8(家事)	2年後	30	27
	生活支援技術9(睡眠)(レクリエーション活動援助法)	2年前	30	28
	生活支援技術10(終末期)(レクリエーション活動援助法)	2年後	30	29
	介護過程Ⅰ	1年前	30	30
	介護過程Ⅱ	1年後	30	31
	介護過程Ⅲ	1年後	30	32
	介護過程Ⅳ	2年	60	33
	介護総合演習Ⅰ	1年	60	34
	介護総合演習Ⅱ	2年	60	35
	介護実習Ⅰ	1年	208	36
	介護実習Ⅱ	2年	248	37
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解Ⅰ	1年前	30	38
	発達と老化の理解Ⅱ	1年後	30	39
	認知症の理解Ⅰ	1年後	30	40
	認知症の理解Ⅱ	2年前	30	41
	障害の理解Ⅰ	2年前	30	42
	障害の理解Ⅱ	2年後	30	43
	こころとからだのしくみⅠ	1年前	30	44
	こころとからだのしくみⅡ	1年後	30	45
	こころとからだのしくみⅢ	1年後	30	46
	こころとからだのしくみⅣ	2年前	30	47
医療的ケア	医療的ケアⅠ	1年後	30	48
	医療的ケアⅡ	2年前	30	49
	医療的ケアⅢ	2年後	30	50
	医療的ケアⅣ	2年後	30	51

介護福祉科 カリキュラム(2025年度～)

領域	教育内容(必要時間数)	科目名	時間数	開講時期
人間と社会 (240)	人間の理解 (90)	人間の尊厳と自立	30	1年前期
		人間関係とコミュニケーションⅠ	30	1年前期
		人間関係とコミュニケーションⅡ	30	2年前期
		計 90		
	社会の理解 (60)	社会の理解Ⅰ	30	1年前期
		社会の理解Ⅱ	30	1年後期
		計 60		
	人間と社会に関する選択科目 (70)	手話	30	1年通年
		家政学実習(栄養・調理)	40	2年通年
		就職実践演習Ⅰ	16	1年後期
		就職実践演習Ⅱ	16	2年前期
		学習支援演習Ⅰ	60	1年通年
		学習支援演習Ⅱ	60	2年通年
		計 222		
	人間と社会の合計 392時間			
介護 (1260)	介護の基本 (180)	介護の基本Ⅰ	30	1年前期
		介護の基本Ⅱ	30	1年前期
		介護の基本Ⅲ	30	1年後期
		介護の基本Ⅳ	30	2年前期
		介護の基本Ⅴ	30	2年前期
		介護の基本Ⅵ	30	2年後期
		計 180		
	コミュニケーション技術 (60)	コミュニケーション技術Ⅰ	30	1年前期
		コミュニケーション技術Ⅱ	30	2年前期
		計 60		
	生活支援技術 (300)	生活支援技術(生活支援)	30	1年前期
		生活支援技術(自立に向けた居住環境の整備)	30	1年前期
		生活支援技術(自立に向けた移動の介護)	30	1年前期
		生活支援技術(自立に向けた食事の介護)	30	1年後期
		生活支援技術(自立に向けた身支度の介護)	30	1年後期
		生活支援技術(自立に向けた排泄の介護)	30	1年後期
		生活支援技術(自立に向けた入浴・清潔保持の介護)	30	2年前期
		生活支援技術(自立に向けた家事の介護)	30	2年後期
		生活支援技術(自立に向けた睡眠の介護)	30	2年前期
		生活支援技術(終末期の介護)	30	2年後期
		計 300		
	介護過程 (150)	介護過程Ⅰ	30	1年前期
		介護過程Ⅱ	30	1年後期
		介護過程Ⅲ	30	1年後期
		介護過程Ⅳ	60	2年通年
		計 150		
	介護総合演習 (120)	介護総合演習Ⅰ	60	1年通年
		介護総合演習Ⅱ	60	2年通年
		計 120		
	介護実習 (450)	介護実習Ⅰ	208	1年通年
		介護実習Ⅱ	248	2年後期
		計 456		
	介護の合計 1,266			
こころとからだのしくみ (300)	発達と老化の理解 (60)	発達と老化の理解Ⅰ	30	1年前期
		発達と老化の理解Ⅱ	30	1年後期
		計 60		
	認知症の理解 (60)	認知症の理解Ⅰ	30	1年後期
		認知症の理解Ⅱ	30	2年前期
		計 60		
	障害の理解(60)	障害の理解Ⅰ	30	2年前期
		障害の理解Ⅱ	30	2年後期
		計 60		
	こころとからだのしくみ (120)	こころとからだのしくみⅠ	30	1年前期
		こころとからだのしくみⅡ	30	1年前期
		こころとからだのしくみⅢ	30	1年後期
		こころとからだのしくみⅣ	30	1年後期
		計 120		
	こころとからだのしくみの合計 300			
(医療的ケア)	医療的ケア (50)	医療的ケアⅠ	30	1年後期
		医療的ケアⅡ	30	2年前期
		医療的ケアⅢ	30	2年後期
		医療的ケアⅣ	30	2年後期
		計 120		
	医療的ケアの合計 120			
(1850)	総 合 計		2,058	

共通ルール

授業内におけるすべての教科に適用される共通ルール。

実技科目など一部の物はそれぞれのシラバスに追記してあるので参照のこと。

持ち込み物	授業、学校行事、学校生活、個人的なニード(常備薬等)に必要なもの以外は持ち込まないこと
携帯電話	原則使用禁止 別途教員からの指示があれば従うこと
飲食	必要な水分補給、咳止めのための飴、その他授業を受けるために必要な物は許可する
私語	授業時間内での私語は厳禁とする
居眠り	起こしても繰り返し居眠りをする者は教室内で起立とする。起立の上居眠りしている場合は欠席扱いとする
遅刻・早退	理由を明らかにして許可を求める事。ただし授業に欠ける時間が30分を超える場合は欠席扱いとする
欠席	理由を明らかにして届けること
公欠	校長の許可を得たものであっても、また交通機関の遅れ等やむを得ないものであっても所定の届けを行なうこと
課題提出	特に指定のもの以外は教務課に設置の課題提出ボックスで期日までに提出すること(遅れたものは提出とはならない)
教員連絡先	全て教務課。実習等学外開講の者は都度指示をする
教科書等	教科書や文献は学年開始時点でまとめて購入する

実習着ルール

清潔にし、専門職にふさわしい整った着こなしをすること。

介護福祉科	揃いのポロシャツ、エプロン、任意のベージュチノ、白い上履き
作業療法学科	揃いのケーシー、スラックス、上履き

感染症対策

<実習室内における行動指針>

- 学校の指定する実習室（介護実習室、義肢装具室、レクリエーション室、家政実習室、入浴実習室、A D L室）は、病院や高齢者施設、居住者宅といった特に感染症対策に注意が必要な場所と見なし、適切な対策（手指消毒やマスク着用など）を行った上で入室すること。別に教員の指示がある場合にはその指示に従うこと。

<学校生活における行動指針>

- 自身の体調、社会の状況に注意しながら、医療・介護福祉の専門職業人として相応しい対応が即時できるように心がけること。

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	人間の尊厳と自立		必修	1年通年	15コマ・30時間
担当教員	品川智則	背景	介護福祉職5年以上		
受講ルール	(本冊子冒頭) 共通ルール				
授業形態	講義	実務家教員 でない			
受講条件	介護福祉科1年生				
教科書等	福祉小六法 中央法規出版 新版・介護福祉士養成講座 1巻 人間の理解				
授業概要					
人間の尊厳と自立と、介護における尊厳の保持・自立支援全体像を理解する。					
狙いと到達目標					
「人間の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
介護福祉施設研修講師の経験を通して、介護現場に求められる規範や価値判断を伝えていく。					
授業計画・内容					
1	人間理解と尊厳について、「人間」の多面的理解について概論的理解を図る。				
2	人間理解と尊厳における、尊厳の歴史的文化的背景の理解をとおして、現代につながる社会的意義や意味を理解する。				
3	人間理解と尊厳における、現代社会の背景と倫理的課題についての理解を深める、複合的な社会問題やダイバーシティの視点で考察する。				
4	人間理解と尊厳における、自立と自律の考え方の相違について、事例を通して理解を深める。				
5	人権と尊厳について、基本的人権の基礎的理解を深めるため、国連憲章や世界人権宣言、日本国憲法など法制度の考え方について学ぶ。				
6	人権と尊厳について、歴史的文化的背景の理解のため、差別や偏見の歴史、近現代の事例を基に学ぶ。				
7	人間理解と尊厳における、事例検討から尊厳と自立についての理解を深めるため、高齢者・障害者・児童・ジェンダーの視点で考える。				
8	人権と尊厳について、現代社会の背景と倫理的課題についての理解を深めるために、これまでの学びを振り返る。				
9	人権と尊厳について、現代社会における権利擁護について成年後見制度を中心に、後見の在り方について学ぶ。				
10	人権と尊厳について、介護におけるアドボカシーを理解するため、高齢者虐待事例を通して介護福祉士としての規範を学ぶ。				
11	人権と尊厳について、介護における人権尊重についての理解を深めるため、介護の事例から介護福祉士としての規範を学ぶ。				
12	人権と尊厳について、介護における身体的な自立支援に向けた意義や意味を改めて学ぶ。				
13	人権と尊厳について、介護における精神的な自立支援に向けた意義や意味を改めて学ぶ。				
14	人権と尊厳について、介護における社会的な自立支援について、その意味や意義を振り返り、まとめとする。				
15	人間の尊厳と自立に関する試験の実施。				
評価方法	授業内の課題40%、科目認定試験結果60%として、60点以上で合格。				
自由記述 (メッセージ)	現代社会において、改めて人間にとっての尊厳とは何かを学ぶ科目です。基盤となる倫理的視点の基盤を構築してもらいたいと考えています。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名・属性	人間関係とコミュニケーションⅠ		必修	1年前期	15コマ・30時間
担当教員	星 浩一	背景	介護福祉士職歴5年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	福祉小六法／中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 1巻 人間の理解				
授業概要					
人間関係の形成、コミュニケーション及び、わかりやすい説明や的確な記録・記述を行うための基礎を理解する。なお、本授業は集中授業として実施する。					
狙いと到達目標					
・本人の置かれている状況を理解し、支援関係の構築や意思決定を支援するための基本的なコミュニケーション技術を身につけることができる。					
・家族の置かれている状況・場面を理解し、家族への支援やパートナーシップを構築するための基本的なコミュニケーション技術を身につけることができる。					
・障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的技術を身につけることができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
現場で培ってきたチームアプローチの考え方を活かし伝えていきたい。さらに、多様な価値観を受け入れチームとして成熟していくために、自己覚知の重要性についても伝えていきたい。					
授業計画・内容					
1	科目の説明 介護におけるコミュニケーション 介護におけるコミュニケーションの対象(意義と目的、役割)				
2	援助関係とコミュニケーション				
3	自己開示について ～利用者との信頼関係～				
4	集中授業のオリエンテーション				
5	グループでの事前準備①				
6	グループでの事前準備②				
7	グループでの事前準備③				
8	学内集中授業（グループワークあり）				
9	学内集中授業（グループワークあり）				
10	学内集中授業（グループワークあり）				
11	学内集中授業（グループワークあり）				
12	学内集中授業（グループワークあり）				
13	学内集中授業（グループワークあり）				
14	学内集中授業（グループワークあり）				
15	集中授業ふり返りとまとめ				
評価方法	授業の平常点(出席、グループワークへの取り組み)60点 授業内レポート40点において60点以上で合格				
自由記述 (メッセージ)	この科目は、集中的に学び期間がある授業になっています。 一緒に、より良い関係づくりについて考えていきましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	人間関係とコミュニケーションⅡ	必修	2年後期	15コマ・30時間	
担当教員	主担当 渡邊義昭	背景	YMCA専任教員		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	福祉小六法／中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 1巻 人間の理解				
授業概要					
介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働く実践力養う学習する					
狙いと到達目標					
・介護の実践におけるチームマネジメントの意義について理解できる。 ・ケアを展開するためのチームマネジメントを理解する。 ・人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメントを理解する。 ・組織の目標達成のためのチームマネジメントについて理解する。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
チームマネジメントの質は介護実践に影響する。基本的な介護に関する学びを実践する際に、組織運営の視点で考え、チームとしてより良い支援を継続するために必要なことを身に付けて活かして欲しい。					
授業計画・内容					
1	本科目の目的と目標 介護実践におけるチームマネジメントの意義:介護サービスの特性				
2	演習①:介護サービスの4つの特性を考える				
3	演習②:介護サービスの4つの特性を考える				
4	介護現場で求められるチームマネジメント 教科書187p～小テスト				
5	介護福祉現場における福祉職の課題(ある社会福祉法人の事例検討)①				
6	介護福祉現場における福祉職の課題(ある社会福祉法人の事例検討)②				
7	介護福祉現場における福祉職の課題(ある社会福祉法人の事例検討)③				
8	介護福祉現場における福祉職の課題(グループ発表)④				
9	介護福祉士が担う現場での役割 期待されるリーダー像について① 現場でのリーダー研修のプログラムより				
10	介護福祉士が担う現場での役割 期待されるリーダー像について② 現場でのリーダー研修のプログラムより				
11	介護福祉士が担う現場での役割 期待されるリーダー像について③ 現場でのリーダー研修のプログラムより				
12	介護福祉士が担う現場での役割 期待されるリーダー像について④ 現場でのリーダー研修のプログラムより				
13	まとめ① チームリーダーになるための「組織の目標達成」、「チームマネジメント」、「組織の理念」				
14	まとめ② チームリーダーになるための「組織の目標達成」、「チームマネジメント」、「組織の理念」				
15	科目認定試験				
評価方法	小テスト 20点 授業の平常点(出席、グループワークへの取り組み)30点 科目認定試験 50点				
自由記述 (メッセージ)	人間関係とコミュニケーションⅡは、介護実践に必要なチームマネジメントについて学習します。実習の体験を活かし、現場での実践に役立てる内容とします。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	社会の理解Ⅰ		必修	1年前期	15コマ・30時間
担当教員	渡邊義昭	背景	専門学校・短期大学・大学等教育歴30年		
授業形態	(本冊子冒頭) 共通ルール				
受講ルール	講義	実務家教員 でない			
受講条件	介護福祉科1年生				
教科書等	福祉小六法 中央法規出版 新版・介護福祉士養成講座 2巻 社会の理解				
授業概要					
生活と福祉の全体像の理解及び社会保障制度について、家庭生活、家族、地域、社会、組織、やライフスタイルの変化など社会構造の変容について学ぶ。また、日本の社会保障制度のしくみの基礎的理解、現代社会における社会保障制度について学ぶ。					
狙いと到達目標					
・介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度、施策についての基礎的な知識を身につける。 ・個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程や、わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
東京都介護福祉士会との高齢者に関する調査研究で得た知見から、社会保障制度の現況について伝えることができる。					
授業計画・内容					
1	生活と福祉の視点から、家庭生活の基本機能 家庭機能の基本的理解を深める。				
2	生活と福祉の視点から、家族 家族の概念と家族機能の時代的変遷について学ぶ。				
3	生活と福祉の視点から、家族 家族の機能や役割の現代的課題について学ぶ。				
4	生活と福祉の視点から、地域 地域およびコミュニティの基本的理解を深める。				
5	生活と福祉の視点から、地域 都市化・過疎化と地域社会の関係について学ぶ。				
6	生活と福祉の視点から、社会・組織 社会、組織の概念および役割と組織化、エンパワメントについて学ぶ。				
7	社会保障制度の基本的考え方について 社会保障の概念、意義、理念を学ぶ。				
8	日本の社会保障制度の発達、憲法と社会保障制度の基本的考え方について学ぶ。				
9	日本の社会保障制度の発達、戦後の社会保障制度の発達(年金・保険、法体制)を学ぶ。				
10	日本の社会保障制度の発達、社会福祉基礎構造改革と地域福祉について学ぶ。				
11	日本の社会保障制度のしくみの基礎的理解、社会保障の財源について学ぶ。				
12	日本の社会保障制度のしくみの基礎的理解、保険制度の理解について学ぶ。				
13	現代社会における社会保障制度を基盤とした、少子高齢化と人口動態の推移を理解する。				
14	現代社会における社会保障制度、社会保障の給付と負担、持続的な社会保障制度を理解する。				
15	生活と福祉、社会保障制度に関する試験の実施				
評価方法	授業内の課題40%、科目認定試験結果60%として、60点以上で合格。				
自由記述 (メッセージ)	私たちの生活を取り巻く、社会環境の現状と制度のしくみを理解することで、介護福祉士としての基盤を構築してもらいたいと考えています。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	社会の理解Ⅱ		必修	1年後期	15コマ・30時間
担当教員	渡邊義昭	背景	専門学校・短期大学・大学等教育歴30年		
授業形態	(本冊子冒頭) 共通ルール				
受講ルール	講義	実務家教員 でない			
受講条件	介護福祉科1年生				
教科書等	福祉小六法 中央法規出版 新版・介護福祉士養成講座 2巻 社会の理解				
授業概要					
介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度、施策について介護保険や障害者総合支援法を中心に、基礎的な知識を養う。また、利用者の権利擁護の視点、職業倫理観を養う。介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者自立支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する学習とする。また、介護実践に必要とされる観点から、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識を習得する。					
狙いと到達目標					
社会保障制度における介護保険制度創設の背景及び目的や動向、仕組みについて基礎的理解を深め、介護保険制度における組織、団体の役割や専門職としての役割について学ぶ。障害者自立支援制度における創設の背景及び目的や動向、仕組みについて基礎的理解を深め、障害者自立支援制度における組織、団体の役割や専門職としての役割について学ぶ。介護実践に関連する諸制度として、個人情報保護、成年後見制度、高齢者虐待防止、生活保護制度など権利擁護の理解を深める。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
東京都介護福祉士会との高齢者に関する調査研究で得た知見から、社会保障制度の現況について伝えることができる。					
授業計画・内容					
1	介護保険制度創設の背景および目的 歴史的経緯と創設時の課題について学ぶ。				
2	介護保険制度の動向およびしくみの基礎的理解 介護保険におけるサービス体制を学ぶ。				
3	介護保険制度の動向およびしくみの基礎的理解 介護保険におけるサービス利用について学ぶ。				
4	介護保険制度の動向およびしくみの基礎的理解 介護保険の運営実施体制について学ぶ。				
5	障害者自立支援法制度創設の背景および目的 歴史的経緯と創設時の課題について学ぶ。				
6	障害者総合支援法制度のしくみの基礎的理解 障害者総合支援法の制度とサービス体系について学ぶ。				
7	障害者総合支援法制度における組織、団体機能と役割・国および地方公共団体等の役割について学ぶ。				
8	介護実践に関連する諸制度から、個人の情報を守る制度の概要 個人情報保護、成年後見制度など権利擁護のしくみについて学ぶ。				
9	介護実践に関連する諸制度から、保健医療福祉に関する諸施策概要・後期高齢者医療制度について学ぶ。				
10	介護実践に関連する諸制度から、保健医療福祉に関する諸施策概要・生活習慣病および健康づくりのための諸施策について学ぶ。				
11	介護実践に関連する諸制度から、保健医療福祉に関する諸施策概要・結核、感染症への対策について学ぶ。				
12	介護実践に関連する諸制度から、保健医療福祉に関する諸施策概要・難病対策、HIV/エイズ予防対策について学ぶ。				
13	介護実践に関連する諸制度から、保健医療福祉に関する諸施策概要・医療関係者および施設に関する法規について学び、多職種連携の基盤を学ぶ。				
14	介護実践に関連する諸制度から、生活保護制度の概要・生活扶助、介護扶助について学ぶ。				
15	介護保険制度、障害者自立支援制度、介護実践に関連する諸制度、に関する試験の実施。				
評価方法	授業の平常点、科目認定試験結果、レポートにおいて60点以上で合格				
自由記述 (メッセージ)	私たちの生活を取り巻く、社会環境の現状と制度のしくみを理解することで、介護福祉士としての基盤を構築してもらいたいと考えています。				

実務家教員

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	手話		必修	1年通年	15コマ30時間
担当教員	加藤信子	背景	手話通訳者として32年間活動しています		
授業形態	演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	なし				
教科書等	豊かなコミュニケーション				
授業概要					
障がい者差別解消法や手話言語条例が採択され、障がい者に対する合理的配慮が求められるようになってきました。聴覚障がいのある利用者に対し手話で対応できるように学びます。手話は大切なコミュニケーションツールですから丁寧な表現方法を学習していきます。					
狙いと到達目標					
・聴覚障がい(者)について理解する→聴覚障がい者の体験を聞く。 ・簡単な手話を表現できるようにする→演習、表現練習をする。イメージをわかせる。 ・簡単な手話を読み取れるようにする→演習、会話をする。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
・手話を学ぶことにより、聴覚障がい者とのコミュニケーションの多様化を知り積極的に会話をして、聴覚障がい者に喜んでもらう。					
授業計画・内容					
1	聴覚障がいとは？コミュニケーション方法とは？等について対話方式で話を進め、聴覚障がい者を理解する				
2	指文字を学習して自分の名前を表す。また、学生同士で会話をして相手の名前を指文字で覚える。				
3	名前の表現を学習して、手話と指文字で自分の名前を表す。また、隣の人は〇〇さんです、と紹介する。				
4	地名の表現を学習して、住んで市とその市の簡単な紹介をする。				
5	家族と数の表現を学習して、家族を紹介する。年齢や人数の表現も覚える。				
6	時の表現として、過去、現在、未来の表現と曜日や月日の表現を覚える。				
7	趣味の表現は身振りが多いのでイメージを膨らませて、表現出来るようにする。				
8	いろいろな職業の表現を知知る。特に介護関係の職種の手話を覚え、現場で活かせるようにする。				
9	課題発表。2～8の学習を基本に自己紹介をする。自己紹介の内容は事前に準備しておくように伝える。				
10	聴覚障がい者の体験談を聞き、聞えないことで「困っていること・失敗したこと」等の大変さを知る。体験談についての質疑応答をする。				
11	二人組になって会話文を練習をする。現場で使えるような会話文を用意します。「老人ホームで」				
12	二人組になって会話文を練習をする。現場で使えるような会話文を用意します。「デイサービスで」				
13	表現テストの説明と表現練習。2人組になる組み合わせを知らせ、事前に2人で練習してもらう。				
14	今まで学習してきた内容を復習し短文の読み取りをする。読み取りすることは事前に知らせておく。				
15	手話表現テスト。2人組になって会話をする。				
評価方法	課題 20% 開講中の読み取り小テスト 30% 開講中の表現テスト 50%				
自由記述 (メッセージ)	聴覚障がい者が入所・通所している場合、手話のできる職員がいることで、ホッと、安心感が生まれます。分らない手話があっても、身振り・筆談で通じ合えたら、聴覚障がい者に喜んでもらえます。気持ちが通じることで素敵な経験ができると思います。				

課程	社会福祉専門課程		学科	介護福祉科	
授業名,属性	家政学実習(栄養・調理)		必修	2年後期	20コマ40時間
担当教員	宮本千華子 浜本千恵		背景	管理栄養士 料理研究家	
授業形態	演習		実務家教員である		
受講ルール	エプロン 実習用帽子 マスク着用 上履き履き替え マニキュア禁止				
受講条件	特になし				
教科書等	プリント配布				
授業概要					
・基本の調理をおさえて、料理の楽しさを覚える。・バランスの良い献立をおさえて、健康と栄養について理解する。・高齢者や障害者の健康度を考え食べやすさ、食欲がわく食事作りを学ぶ。					
・生きるための基本である「食えること」。食えることの大切さ、よりよく食える方法を学習し、理解する。 ・バランスの良い食事について、栄養面だけでなく、味、温度、彩り、季節のバランスなどを理解する。 ・食える人の健康度を考えた献立が作れるように、基本的な知識と技術を修得する。・合わせてチームワークの大切さを学習する					
授業において実務経験をどのように生かすか					
食えることで身体は作られる。例をあげて伝える。料理のポイント、手早く作る方法、裏技、応用編を伝えて、料理作りに興味を持ち健康について考えるように伝える。					
授業計画・内容					
1	テーマ「オリエンテーション 献立の立て方」 講義				
2	調理デモンストレーション				
3	各班で調理実習 試食 片付け				
4	テーマ「消化の良い食事」 講義				
5	調理デモンストレーション				
6	各班で調理実習 試食 片付け				
7	テーマ「季節を取り入れた和食の献立」 講義				
8	調理デモンストレーション				
9	各班で調理実習 試食 片付け				
10	テーマ「減塩食の工夫献立」 講義				
11	調理デモンストレーション				
12	各班で調理実習 試食 片付け				
13	テーマ「飲み込みやすい食事」 講義				
14	調理デモンストレーション				
15	各班で調理実習 試食 片付け				
16	テーマ「手早く作る料理の工夫」 講義 調理デモンストレーション				
17	各班で調理実習 試食 片付け				
18	テーマ「骨粗鬆症を予防するカルシウム料理」 講義				
19	調理デモンストレーション				
20	各班で調理実習 試食 片付け 特別掃除				
評価方法 ① 毎回の演習への取り組み方 ② 当番出席状況 ③ 課題レポート					
(メッセージ)「食は生命(いのち)なり」 食えることで体は作られる。「食」に関心を持ち、毎日の食事を大切にして、健康な体を保ってほしい。健康であれば何にでも意欲的に取り組める。 周りの人にも無理なく優しく接することができる。					

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名・属性	就職実践演習Ⅰ		必修	1年後期	8コマ・16時間
担当教員	渡邊義昭	背景	専門学校・短期大学・大学等教育歴30年		
授業形態	(本冊子冒頭) 共通ルール				
受講ルール	講義 + 演習	実務家教員 でない			
受講条件	介護福祉科1年生				
教科書等	ふくしのしごとがわかる本				
授業概要					
福祉専門職としての就職の意義や、就職先としての福祉施設の見方について学び、専門職として求められる人材像について自己分析しながら理解を深めていく。また、就職の目的や意義を自分の言葉で表現できるようにする。					
狙いと到達目標					
福祉専門職として必要な、職業観・就労観を身につけ、福祉専門職員としての考え方、意識を高める。また、社会人としての基盤となる教養を身につけ、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を実践的に身につけ、グループワークを通じたチームワークの重要性を理解する。また、就職に向けた活動方法の手順や実践的な対応方法について学ぶ。就職について、各自が目的や意義を十分に理解し、福祉専門職としての就労の意味を自分の言葉で発表でき、それぞれの職業観・就労観を身につけることを目標とする。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
介護福祉施設研修講師の経験を通して、介護現場に求められる人物像や期待される職業人像を伝えてることができる。					
授業計画・内容					
1	就職とは何か、就職の目的や意義について、就労という視点から学ぶ。				
2	就職とは何か、福祉専門職における就職の意味 社会的な意味や職業観について学ぶ。				
3	コミュニケーション能力、グループワークを通して就労の目的・意義について各自が発表しグループでの意見集約を行う方法を理解する。				
4	コミュニケーション能力、グループワークを通して福祉専門職について各自の意見を発表しグループでの意見集約を行う方法を理解する。				
5	プレゼンテーション能力、グループワークでまとめた意見を、レジュメを作成し発表する力を身につける。				
6	ビジネスマナー、電話の受け応えや、受付での接客についての基本的対応やビジネススキルについて学ぶ。				
7	課題文章の作成 テーマ「目指す介護福祉士像」 まとめ これまでの学習の振り返りと、卒業年次に向けた就職活動について				
8	まとめ 授業の振り返り				
評価方法	授業内の課題40%、科目認定レポート試験結果60%として、60点以上で合格。				
自由記述 (メッセージ)	この授業を通して、就職に向けた準備(ビジネスマナー・面接・作文)だけでなく、介護福祉分野への職業観を身につけてもらいたいと考えています。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	就職実践演習Ⅱ		必修	2年前期	8コマ・16時間
担当教員	渡邊義昭	背景	専門学校・短期大学・大学等教育歴30年		
授業形態	(本冊子冒頭) 共通ルール				
受講ルール	講義+演習	実務家教員 でない			
受講条件	介護福祉科2年生				
教科書等	ふくしのしごとがわかる本				
授業概要 一人ひとりの学生が、自分の将来を見据えて就職活動が出来るようになる。					
狙いと到達目標 就職活動準備シートを使用し、働くことに対してのイメージを明確にし、模擬面接等を通して、実践力を身に付ける。 現在の自分を見つめなおし、自分らしい働き方をイメージすることが出来るようになる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 介護福祉施設研修講師の経験を通して、介護現場に求められる人物像や期待される職業人像を伝えることができる。					
授業計画・内容					
1	就職実践演習オリエンテーション 目的、意義、進め方の説明。				
2	就職活動準備(作成)・求人情報シートへの記入 (入学動機、実習等から得られたもの、目指す介護福祉士)(希望就職先の種別、場所、運営方針等)				
3	履歴書の書き方、自己紹介書の書き方				
4	面接試験について、心構え、面接時の注意事項				
5	リアル模擬面接のオリエンテーション(目的、意義)				
6	リアル模擬面接の実施 リアル模擬面接、フィードバック				
7	小論文の書き方、グループワーク				
8	まとめ 授業の振り返り				
評価方法	授業内の課題40%、科目認定レポート試験結果60%として、60点以上で合格。				
自由記述 (メッセージ)	この授業を通して、就職に向けた準備(ビジネスマナー・面接・作文)だけでなく、介護福祉分野への職業観を身につけてもらいたいと考えています。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	学習支援演習Ⅰ		必修	1年通年	30コマ・60時間
担当教員	星 浩一	背景	介護福祉士歴 5年		
授業形態	共通ルール				
受講ルール	演習	実務家教員 である			
受講条件	介護福祉科1年生				
教科書等	授業内で必要な資料を配布する				
授業概要					
授業科目に属さない福祉問題に関する学びや、通常の授業において不足している領域を補い、学生一人一人が十分な学習や知識の習得を支援するために実施する。各教科に関する学習情報、学習方法の提示、学校からの情報提供など総合的に学生を支援し、多様な学習能力の学生に対して対応できるよう演習授業として、学生の学習意欲を高めることを目的とする。					
狙いと到達目標					
・学生への学習支援を目的とし、多様な学生に対応できるよう学習の機会提供、学習意欲の向上を目指している。 ・グループワークを通して発言力・発表力や要約力を高める。 ・学習計画、学習目標を自分で立て、学習習慣を身につけることを目標とし、自立学習できる力を養う。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
介護現場に求められる人物像や期待される職業人像など社会人に必要な基礎力を介護福祉士としての現場経験を通して伝えていきたい。					
授業計画・内容					
1	学習支援演習とは、学年運営について				
2	介護に求められる接遇とは、授業の受け方学び方				
3	4・5月の過ごし方、学習計画の立案				
4	入学後の振り返り、学生面談の進め方				
5	スポーツデイとは、意義目的・準備				
6	スポーツデイ準備、科目認定試験について				
7	スポーツデイ振り返り 実習Ⅰ－Ⅰに向けて				
8	実習Ⅰ－Ⅰ終了後 記録の提出に向けて 集中授業について①				
9	集中授業について②				
10	集中授業振り返り 学園祭準備				
11	学園祭振り返り				
12	介護のこころをあたためる① ビデオからの学び				
13	介護のこころをあたためる② 文献からの学び				
14	夏休みの過ごし方				
15	前期まとめ 学年運営目標振り返り ボランティア実践に向けて				
16	後期授業について 学年運営再確認				
17	基礎学習力① 聞く力、読む力、書く力、発表する力について				
18	基礎学習力② 聞く力、読む力、書く力、発表する力について				
19	基礎学習力③ 聞く力、読む力、書く力、発表する力について				
20	基礎学習力④ 聞く力、読む力、書く力、発表する力について				
21	基礎学習力⑤ 聞く力、読む力、書く力、発表する力について				
22	基礎学習力⑥ 聞く力、読む力、書く力、発表する力について				
23	介護のこころをあたためる③ 実習に向けて				
24	介護のこころをあたためる④ 現代の福祉課題について				
25	介護のこころをあたためる⑤ ライフプラン・ライフステージについて				
26	冬休みに向けての課題(グループワーク)				
27	冬休みに向けての課題共有(グループワーク)				
28	進級に向けて 国家試験とは				
29	後期学習の振り返り、前期・後期の学びについて総括 ボランティア活動				
30	まとめ 2年次及び卒業就職に向けたスケジュールと目標設定について				
評価方法	授業内の課題40%、科目認定試験結果60%として、60点以上で合格。				
自由記述 (メッセージ)	この授業を通して、介護福祉士としての基盤と介護観のみならず、グループワークを通じた学習の在り方を学びます。				

-11-

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	学習支援演習Ⅱ		必修	2年通年	30コマ・60時間
担当教員	小針 臣子	背景	看護師	教育歴7年	
授業形態	演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	授業内で必要な資料を配布する				
授業概要					
学びへの意識の維持向上を目指すと共に働く上で必要な知識・考え方を身につける為に学習支援を実施する。また、学校生活を円滑に行う上での、情報提供及び、国家試験の対策講座を設ける。					
狙いと到達目標					
・基礎科目や実習、様々な学びを統合させ、介護福祉士として必要な知識・価値観、振る舞い等を考えることが出来る。 ・グループ学習・自主学習を通し国家試験に合格に向け、積極的に取り組むことが出来る。 ・自分自身について考え、自分を活かし、他の人のことを考え、共に活躍できる取り組みに向けて努力する。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
社会福祉及び医療の専門職としての経験、地域活動経験やネットワークを活かして、介護現場に求められる人物像や期待される職業人像を伝えていきたい。また、国家試験対策を現場で通用するための知識となることも合わせて伝えていく。					
授業計画・内容					
1	新年度オリエンテーション、実力試験の振り返り「自分を知る」「これからの自分を考える」				
2	学習成果発表会に向けてオリエンテーション スポーツデイに向けてオリエンテーション				
3	学習成果発表会(1年生合同)				
4	学習支援発表会の振り返り スポーツデイ準備 国家試験練習問題				
5	スポーツデイ準備(1年生合同)				
6	スポーツデイの振り返り 国家試験練習問題				
7	ポートフォリオ(自分の記録)を書いてみよう「自分を振り返る」				
8	学園祭に向けてオリエンテーション 国家試験練習問題				
9	「将来の自分をイメージしよう」アクティブ福祉に向けてオリエンテーション 学園祭準備				
10	アクティブ福祉の振り返り 第1回模擬試験に向けて 学園祭準備				
11	ジョブカフェに向けて 第1回模擬試験振り返り				
12	ジョブカフェに参加して 学園祭準備(1年生合同)				
13	学園祭の振り返り 国家試験練習問題				
14	リアル模擬面接に向けて「将来の自分のためにできることは？」				
15	リアル模擬面接に参加して 前期まとめ・夏休みの過ごし方・実習Ⅱに向けて				
16	後期学習オリエンテーション、実習Ⅱにむけての準備と心構え				
17	実習Ⅱ-2にむけて・実習での学び確認				
18	実習Ⅱを終えて、今後のスケジュールについて				
19	介護のこころをあたためる				
20	国家試験集中対策講座				
21	国家試験集中対策講座				
22	国家試験集中対策講座				
23	国家試験集中対策講座				
24	模擬試験に向けて				
25	冬休みに向けて				
26	冬休み明けオリエンテーション				
27	卒業研究発表会に向けて、国家試験集中対策講座				
28	国家試験集中対策講座				
29	国家試験の答合わせ及び卒業に向けて、卒業オリエンテーション				
30	2年間を振り返ってのまとめ、卒業研究発表会に向けて				
評価方法	出席、授業内の課題を総合的に評価し、60点以上で合格。				
自由記述 (メッセージ)	共に成長しましょう。 考えや経験を分かち合いましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	介護の基本Ⅰ		必修	1年前期	15コマ・30時間
担当教員	星浩一	背景	介護福祉士職歴5年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	電子辞書を用意する(携帯電話不可)				
教科書等	最新介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ 最新介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ				
授業概要					
介護福祉士の行う介護を理解する上での基本的知識を身に付ける。介護の理念、歴史、関連する制度、職業倫理等、文字通りの「介護の基本」を中心に学ぶ。「尊厳の保持」「自立支援」という基本的な介護の考え方や用語を理解する。					
狙いと到達目標					
・今日までの介護の歴史を理解する。 ・介護福祉士の役割と機能を理解する。 ・介護福祉の理念を説明できる。 ・社会福祉士及び介護福祉士法の義務について説明できる。 ・日本介護福祉士会倫理綱領について説明できる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
介護福祉士としての現場での「自立支援」、「尊厳の保持」に関する取り組みをを授業の具体例として活かし、介護福祉士倫理綱領の大切さを伝えていきたい。					
授業計画・内容					
1	授業オリエンテーション・介護のイメージ 授業内:課題あり(要提出) 復習:授業資料を読み返す				
2	介護福祉を取り巻く状況 授業内:グループワークあり 復習:授業資料を読み返す				
3	介護福祉の歴史① 戦前の社会福祉政策・戦後、 介護福祉の歴史② 介護問題への対応が始まるまで 復習:授業資料を読み返す				
4	介護福祉の歴史③ 老人福祉法と訪問介護の歴史 復習:授業資料を読み返す				
5	介護福祉の歴史④ 1970年代 介護サービスの量的拡充 介護福祉の歴史⑤ 1980年代 介護サービスの質的向上 復習:授業資料を読み返す				
6	介護福祉の歴史⑥ 1990年代 介護保険法の制定に向けて 介護福祉の歴史⑦ 2000年以降 今日の介護サービスの基本的枠組みの整備と介護概念の拡大				
7	介護福祉士の基本理念① 介護福祉の理念とは？ 復習:授業資料を読み返す				
8	介護福祉士の基本理念② 尊厳、自立を支える介護とは？ 復習:授業資料を読み返す				
9	社会福祉士及び介護福祉士法 授業内:グループワークあり 復習:授業資料を読み返す				
10	介護福祉士の倫理 介護にたずさわる人が持つべき職業倫理 復習:授業資料を読み返す				
11	日本介護福祉士会 倫理綱領① 授業内:課題あり(要提出) 復習:授業資料を読み返す				
12	日本介護福祉士会 倫理綱領② 復習:授業資料を読み返す				
13	介護福祉士の活動の場と役割① 復習:授業資料を読み返す				
14	介護福祉士の活動の場と役割② 授業内:課題あり(要提出) 復習:授業資料を読み返す				
15	科目認定試験				
評価方法	①小テスト 20% ②レポート 10% ③科目認定試験 70%				
自由記述 (メッセージ)	本授業は、介護福祉士として働く上での大前提となる知識を習得します。難しい言葉もありますが、言葉の意味を一つ一つ丁寧に理解することを望みます。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	介護の基本Ⅱ		必修	1年前期	15コマ・30時間
担当教員	佐々木 幸		背景	教員歴20年以上	
授業形態	講義		実務家教員 である		
受講ルール	共通ルール				
受講条件	電子辞書を用意(スマホの辞書アプリでも可)				
教科書等	最新介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ 最新介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ				
授業概要					
・「尊厳を支える介護」「自立支援」について理解を深める。 ・介護における「ICF」の捉え方を理解し、介護の実践に応用する視点を持つ。 ・「高齢者虐待」「身体拘束」「個人情報保護」について理解する。 ・介護における専門職能団体の活動を知る。					
狙いと到達目標					
・「尊厳を支える介護」「自立支援」について述べるができる。 ・「ICF」における生活機能と各因子との相互作用について説明できる。 ・「高齢者虐待」「身体拘束」「個人情報保護」に関連する知識を説明できる。 ・介護における専門職能団体の活動を説明できる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
介護福祉士が身につけるべき倫理観や実践上の視点を、まず同じ社会を生きる1人の人間としてさまざまな角度から捉え直し、そこに専門職としての見方を少しずつ積み上げていく。 実務経験において感じる疑問や葛藤を学生と共に考え、利用者と対等な関係を築くための基礎とする。					
授業計画・内容					
1	尊厳を支える介護 ノーマライゼーションとは				
2	自立を支える介護 ストレngthsとは				
3	ICFの基本理解 小テスト				
4	事例を通して ICFの考え方を理解する①				
5	事例を通して ICFの考え方を理解する②				
6	事例を通して ICFの考え方を理解する③				
7	事例を通して ICFの考え方を理解する④ 小テスト				
8	高齢者虐待				
9	身体拘束の禁止				
10	緊急やむを得ない身体拘束				
11	障害者虐待 小テスト				
12	個人情報保護①				
13	個人情報保護② 小テスト				
14	介護における専門職能団体の活動・多職種連携				
15	科目認定試験				
評価方法	①出席点 10% ②小テスト×4回 30% ③科目認定試験 60%				
自由記述 (メッセージ)	要介護者の尊厳ある生活を支えることは、想像以上に大変なことです。利用者と対等な関係を築き、「互いに支え合う関係」をつくるためのさまざまな考え方や見かたを身につけていきましょう。要介護者の生活を偏りなく捉える上で、さまざまな法制度やICFの理解は必須です。映像や事例を使って、実践的に学んでいきましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	介護の基本Ⅲ		必修	1年後期	15コマ・30時間
担当教員	主担当 善平弘子	背景	看護師職歴9年		
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール＋実習着 ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	介護福祉士養成講座4介護の基本Ⅱ 介護福祉士養成講座11こととからだのしくみ				
授業概要 介護における安全確保に関する基本的知識を理解し実践できる。					
狙いと到達目標 ・リスクマネジメントについて理解することができる。 ・観察の基本を理解し、バイタルサインを正確に測定することができる。 ・介護職ができる「医行為でない行為」について理解できる。 ・感染予防のための基礎知識を理解し、実施することができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 看護師経験を活かし、安全を確保するための行動について実践できるような教育をする。 また、現場に起こりやすい介護事故について、原因と対策について考えられるような教育をする。					
授業計画・内容					
1	救命救急講習				
2	救命救急講習				
3	救命救急講習				
4	救命救急講習				
5	バイタルサインの基礎知識を理解する。				
6	バイタルサインを正確に測定することができる。				演習
7	観察の基本を理解し、事例を通して理解する。医行為でない行為について理解する。				
8	医薬品使用の介助について理解する。				
9	リスクマネジメント①リスクマネジメントとは何か理解する。				
10	リスクマネジメント②介護事故に関するグループワーク				
11	感染対策の基本を理解する。				
12	高齢者施設での感染対策について理解する。				
13	標準予防策について理解し、実践できる。				演習
14	感染性胃腸炎の対応について理解し、実践できる。				演習
15	科目認定試験				
評価方法	科目認定試験・レポートにおいて60点以上で合格とする。				
自由記述 (メッセージ)	安全を守るための確実な知識と正確な技術が求められます。特に、演習では正確な技術が実践できるように望んでほしい。また、「医療的ケア」の基礎になります。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名・属性	介護の基本Ⅳ		必修	2年前期	15コマ・30時間
担当教員	主担当 佐々木 幸、望月太敦			背景	
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	新・介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅱ				
授業概要					
1. 介護を必要とする人の暮らしの理解 介護福祉を必要とする人の生活の個別性に対応するために、生活の多様性や家族、ならびに社会との関りについて深める内容とする。					
2. 介護従事者の安全 介護従事者が、心身共に健康に介護を実践するための健康管理や労働環境について理解する。					
狙いと到達目標					
・高齢者や障害児者の、暮らしの多様性(ライフステージ、生活史、価値観、生活様式、リズムなど)を理解する。					
・高齢者や害児児者を支える家族や地域社会の理解を深め、実践可能な介護実践を考察できる。					
・介護従事者が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境について理解する。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
教員の実務経験をもとに多様な事例を紹介し、高齢者や障害者の暮らしについて、より現実的な視点から紐解いていく授業とする。					
授業計画・内容					
1	介護を必要とする高齢者の、暮らしの多様性を理解する①				
2	介護を必要とする高齢者の、暮らしの多様性を理解する②				
3	介護を必要とする高齢者の、暮らしの多様性を理解する③				
4	介護を必要とする高齢者の、生活のしづらさを理解し支援を考える				
5	介護を必要とする高齢者を支える地域実践を考える				
6	介護を必要とする高齢者の家族の理解と支援を学ぶ			小テストまたは課題	
7	介護を必要とする障害者の暮らしを理解する				
8	介護を必要とする障害児の暮らしを理解する				
9	障害のある人の生活のしづらさを理解し、その支援を考える				
10	障害のある人の家族を理解し、その支援を考える				
11	地域で障害のある人と家族が安心して暮らし続けるための支援を考える①				
12	地域で障害のある人と家族が安心して暮らし続けるための支援を考える② 課題				
13	健康管理の意義・目的、介護従事者を守る団体と法制度を理解する				
14	労働環境の整備と心身の健康管理について理解する 小テストまたは課題				
15	科目認定試験				
評価方法	出席率(10%)、授業内の課題(40%)、科目認定試験結果(50%)として、60点以上で合格。				
自由記述 (メッセージ)	・1年生で学んだ基本知識を活かし、利用者の多様な暮らしの理解を深め、個別支援に活かせるようにしましょう。 ・介護従事者の健康管理がなぜ大切なのか理解し、自らの介護実践に活かしましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	介護の基本Ⅴ		必修	2年前期	15コマ・30時間
担当教員	品川智則／作業療法学科教員		背景	専門学校・短期大学・大学等教育歴29年／作業療法士	
授業形態	講義		実務家教員 である		
受講ルール	(本冊子冒頭) 共通ルール				
受講条件	介護福祉科2年生				
教科書等	福祉小六法 中央法規出版 新版・介護福祉士養成講座 4巻 介護の基本Ⅱ				
授業概要					
リハビリテーションやケアマネジメントの考え方を理解し、専門職(他職種)との連携を学ぶ。					
狙いと到達目標					
・「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解する。 ・「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉える。 ・リハビリテーションの基本を学び、他職種協働やケアマネジメントなどの実際を理解する。 ・介護やリハビリにおけるチームケアについて理解、説明ができる。サービス担当者会議を行うことができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
高齢者やリハビリテーション分野における調査研究で得た知見から、ケアマネジメントの在り方を伝えることができる。					
授業計画・内容					
1	科目説明 科目オリエンテーション				
2	自立支援とリハビリテーション① リハビリテーションの考え方 佐々木先生				
3	自立支援とリハビリテーション② ICF・QOL 佐々木先生				
4	自立支援とリハビリテーション③ リハビリテーションの実際				
5	自立支援とリハビリテーション④ 発達				
6	自立支援とリハビリテーション⑤ 地域・身体				
7	自立支援とリハビリテーション⑥ 介護予防・老年				
8	自立支援とリハビリテーション⑦ 精神				
9	ケアマネジメントの理解① ケアマネジメントとは①				
10	ケアマネジメントの理解② ケアマネジメントとは②				
11	ケアマネジメントの理解③ 介護保険制利用の流れ				
12	ケアマネジメントの理解④ サービス担当者会議の理解①				
13	ケアマネジメントの理解⑤ サービス担当者会議の理解②				
14	ケアマネジメントの理解⑥ 介護サービス計画と個別介護サービス計画				
15	自立に向けたリハビリテーション・ケアマネジメントに関する試験の実施				
評価方法	授業内の自立支援とリハビリテーション50%、ケアマネジメント50% 科目認定試験結果60%として、60点以上で合格。				
自由記述 (メッセージ)	介護福祉士として、自立に向けたリハビリテーション・ケアマネジメントの理解は不可欠です。ケアマネジメントの総体的な理解を求めます。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	介護の基本Ⅵ		必修	2年後期	15コマ・30時間
担当教員	佐々木 幸	背景	専門学校・短期大学・大学等教育歴29年		
授業形態	講義	実務家教員 でない			
受講ルール	(本冊子冒頭) 共通ルール				
受講条件	介護福祉科2年生				
教科書等	福祉小六法 中央法規出版 新版・介護福祉士養成講座 4巻 介護の基本Ⅱ				
授業概要					
介護福祉士として地域社会にどのように参画・貢献するか。施設・事業所内での個別ケアから、一人の地域住民として介護福祉士がもつ専門的な視点・思考・実践力を地域で暮らす要介護者や家族・住民の生活に向けて、フォーマル、インフォーマルな関係者と協働しながら生かし、活用する方策を検討する。					
狙いと到達目標					
・介護福祉士としての専門的な視点・思考・実践力について、自分の言葉で説明することができる。 ・「地域包括ケアシステム」「地域共生社会」の概念を理解し、実態に即して説明することができる。 ・統計データをもとに、地域で暮らす要介護者や家族・住民の生活課題を考察、説明することができる。 ・認知症地域支援の事例をもとに、自分が暮らす地域での具体的な方策について検討することができる。 ・グループメンバーと協働して、各自の意見を尊重し合う建設的な議論をもとに発表することができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
介護実践・教育及び認知症介護に関する研究経験を通じて、介護福祉士として、所属する施設・事業所内での個別ケアから広く地域社会に貢献する視点や思考方法を身につけることができる。					
授業計画・内容					
1	はじめに(これまでの学習の振り返り、事例の提示と授業の進め方、グループディスカッションを通じた互いの視点の確認、到達目標の提示)				
2	認知症の地域支援 1. オレンジプランから認知症基本法へ				
3	認知症の地域支援 2. 認知症地域支援推進員の取り組み				
4	認知症の地域支援 3. 介護福祉士としての取り組みを検討する① グループワーク				
5	認知症の地域支援 4. 介護福祉士としての取り組みを検討する② グループ発表準備				
6	認知症の地域支援 5. 介護福祉士としての取り組みを検討する③ グループ発表				
7	地域支援に関する論文講読①				
8	地域支援に関する論文講読②				
9	災害時の地域支援 1. 災害対策の概要(災害時要援護者、福祉避難所、BCPの理解)				
10	災害時の地域支援 2. 災害時の介護ニーズ(地域: 避難行動要支援者／施設 避難時の介護)				
11	災害時の地域支援 3. 介護福祉士としての取り組みを検討する① グループワーク				
12	災害時の地域支援 4. 介護福祉士としての取り組みを検討する② グループ発表準備				
13	災害時の地域支援 5. 介護福祉士としての取り組みを検討する③ グループ発表				
14	全体のまとめ				
15	科目認定試験				
評価方法	授業内の課題(ディスカッション、発表、レポート): 40% 科目認定試験結果: 60%				
自由記述 (メッセージ)	地域に目を向けることは、最終的に日々かわる利用者や自分自身、家族や大切な人たちの生活を幅広く支えることにつながります。背伸びをせず、自分の地域や暮らしに目を向けて「地域共生社会」のあり方を考えましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	コミュニケーション技術Ⅰ		必修	1年前期	15コマ・30時間
担当教員	吉田真衣	背景	介護福祉士職歴6年		
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 第5巻 コミュニケーション技術				
授業概要					
本授業では、人間関係とコミュニケーションで学ぶコミュニケーションの基礎的な知識を基盤に、本人及び家族とのよりよい関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な知識・技術を習得する。					
狙いと到達目標					
・本人の置かれている状況を理解し、支援関係の構築や意思決定を支援するための基本的なコミュニケーション技術を身につけることができる。 ・家族の置かれている状況・場面を理解し、家族への支援やパートナーシップを構築するための基本的なコミュニケーション技術を身につけることができる。 ・障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的技術を身につけることができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
学生の学習段階や状況に応じて臨床経験の具体的な事例を提供し、利用者や場面を具体的にイメージできるよう授業を構成する。また、具体例を交えた課題や基本技術の理解促進を目的とした演習を実施する。さらに、各学生の実習で得られた学びを授業内容に適宜反映するよう努める。					
授業計画・内容					
1	介護におけるコミュニケーションとは／介護におけるコミュニケーションの対象 授業内:課題あり(要提出) 復習:授業資料を読み返す				
2	介護におけるコミュニケーションの展開過程／援助関係とコミュニケーション／傾聴 授業後:課題あり(次回提出)				
3	コミュニケーション基本技術1 傾聴の技法／関わりを示す5つの基本動作(SOLER) 授業内:課題あり(要提出) 復習:授業資料を読み返す				
4	コミュニケーション基本技術2 受容・共感 授業内:課題あり(要提出) 復習:授業資料を読み返す				
5	コミュニケーション障害の理解 予習:教科書p74-77を読む 復習:授業資料を読み返す				
6	利用者の特性に応じたコミュニケーション～視覚障害のある人への支援～ 予習:教科書p84-91を読む 復習:授業資料を読み返す				
7	利用者の特性に応じたコミュニケーション～聴覚障害のある人への支援～ 予習:教科書p92-97を読む 復習:授業資料を読み返す				
8	利用者の特性に応じたコミュニケーション～言語障害のある人への支援～ 予習:教科書p99-112を読む 授業内課題あり(要提出) 復習:授業資料を読み返す				
9	利用者の特性に応じたコミュニケーション～認知症の人への支援～ 予習:教科書p113-124を読む 復習:授業資料を読み返す				
10	利用者の特性に応じたコミュニケーション～うつ病・抑うつ状態、統合失調症の人への支援～ 予習:教科書p124-131を読む 復習:授業資料を読み返す				
11	利用者の特性に応じたコミュニケーション～知的障害、発達障害のある人への支援～ 予習:教科書p134-148を読む 復習:授業資料を読み返す				
12	利用者の特性に応じたコミュニケーション～高次脳機能障害、重症心身障害のある人への支援～ ／コミュニケーション支援用具 予習:教科書p149-162を読む 復習:授業資料を読み返す				
13	家族とのコミュニケーション 予習:教科書p168-181を読む 復習:授業資料を読み返す				
14	まとめ				
15	科目認定試験				
評価方法	科目認定試験90%・提出課題10%で評価。 総合し60点以上であること。				
自由記述 (メッセージ)	様々な介護場面において、専門家として適切な支援を行うためには、利用者やその家族、ならびに他の専門職との効果的なコミュニケーションが不可欠です。さらに、利用者との関係を深め、利用者の生活の質の向上に寄与するためには、単に「コミュニケーション」を取るだけでは十分ではありません。本科目を通じて、コミュニケーションの基本技術及びその効果を学ぶことに加え、他科目や実習、さらには学校生活における経験を通じて、コミュニケーション技術の習得に取り組んでいきましょう。				

課程	社会福祉専門課程		学科	介護福祉科	
授業名 属性	コミュニケーション技術Ⅱ			必修	2年前期 15コマ・30時間
担当教員	半田 仁		背景	介護職員6年+教員13年	
授業形態	講義		実務家教員 である		
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	介護福祉士養成講座編集委員会編『コミュニケーション技術』中央法規				
授業概要					
コミュニケーション技術の習得の授業のため、講義だけではなく、演習も行い、コミュニケーション技術の向上を図るとともに、実践的なコミュニケーション能力も養う					
狙いと到達目標					
・利用者のみならず、家族や他職種に対する実践的なコミュニケーションがとれるようになる。 ・援助的なコミュニケーションについて理解するとともに、実践的なコミュニケーションがとれるようになる。 ・家族や多職種との連携を図る上での実践的なコミュニケーションの重要性を理解することができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
通所介護および特別養護老人ホームにて介護職員としてに携わった経験から、高齢者の気持ちや行動の意味付けの理解と共に、各介護サービスによる必要な技術の違いについて実践を交えながら講義や演習の中において活かしていく。					
授業計画・内容					
1	介護における記録の意義、目的				
2	実践記録の基本的な書き方(観察の記録の書き方、種類)				
3	報告 報告の意義と目的				
4	連絡・相談 連絡・相談の方法、留意事項				
5	介護記録の基本的な書き方(介護記録の実際 記録を実践に活用)				
6	介護記録の基本的な書き方(介護記録の管理、介護記録の活用)				
7	記録の活用方法(介護計画に活用)				
8	記録の活用方法(リスクマネジメントに活用)				
9	会議 会議の意義と目的				
10	会議 会議の種類と方法				
11	事例検討に関する技術(職員の教育に活用)				
12	介護記録によるICT活用を含めた情報の共有化の意義、活用の留意点				
13	記録の管理 記録の管理と個人情報の保護				
14	まとめ(記録の意義や目的をまとめ、振り返る)				
15	科目認定試験				
評価方法	講義だけでなく、演習も行っていくので、参加度(20%)、授業内課題(20%)、科目認定試験(60%)を総合的に判断し、評価を行う。 総合評価、60点以上であること。				
自由記述 (メッセージ)	生活支援「技術」と同様に、コミュニケーションを感性や感覚ではなくコミュニケーション「技術」として習得および活用して頂きたい。 目の前にいる人を対象とした直接的なコミュニケーション技術からICT活用を含めた介護記録としての間接的なコミュニケーション技術へとコミュニケーション技術の幅を広げて頂きたい。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	生活支援技術1		必修	1年前期	15コマ・30時間
担当教員	品川智則	背景	介護福祉士職歴5年		
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉士養成講座 第6巻 生活支援技術Ⅰ 中央法規 最新介護福祉士養成講座 第4巻 介護の基本Ⅱ 中央法規				
授業概要					
適切な介護技術を用い援助できる知識を修得する。 また、生活支援を実施していくうえで、必要な理念価値、実践価値について学び、専門職が行う生活支援技術の土台について学びます。					
狙いと到達目標					
尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。 安全・安楽な介護技術を用いることができる基本的な考え方が理解できる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
私は、介護現場において、利用者の心身の状況に応じた介護を実践するために、利用者を多角的な視点で全体を把握し、その時々で必要なかわりには何か考え判断し実践してきた。多様な利用者との関わりから得られた経験から、自立支援とは何かを一緒に考えていきたい。					
授業計画・内容					
1	生活支援技術とは 生活とは何か、学習の内容とポイント				
2	生活支援とは何か① 生活支援の基本的な考え方				
3	生活支援とは何か② 生活支援の基本的な考え方				
4	生活支援とは何か③ 生活支援の基本的な考え方				
5	生活支援とは何か④ 生活史について考える				
6	生活支援とは何か⑤ 生活史について考える				
7	生活支援とは何か⑥ 生活史について考える				
8	生活支援とは何か⑦ 生活史について考える				
9	生活支援の考え方① 自立支援				
10	生活支援の考え方② 自己選択自己決定				
11	生活支援の考え方③ 生活支援の対象者				
12	生活支援における他職種との連携				
13	生活支援のポイント				
14	生活支援のポイント 科目のまとめ				
15	科目認定試験				
評価方法	授業内の課題30%、平常点10%、科目認定試験結果60%として、60点以上で合格とする。				
自由記述 (メッセージ)	生活支援技術1では、これから具体的に学んでいく技術を実践するうえでの土台となる考え方について学びます。改めて、生活とは何かを考えるとともに、他者の価値観や考え方に関心をもつことを普段の生活のなかでも実施していきましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	生活支援技術2 (自立に向けた居住環境の整備) (自立に向けた移動の介護)		必修	1年前期	15コマ・30時間
担当教員	品川智則	背景	介護福祉士職歴5年		
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール＋実習者ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ 中央法規				
授業概要					
この科目は「居住環境整備」に関する内容と「移動の介護」に関する内容とで構成されている。尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出すこと、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について学習する。「こころとからだのしくみ」を中心とした他科目での学びも関連させ、講義・演習を通して学んでいく。また、演習では援助者役・利用者役を行い学習すると共に授業内容の振り返りを行う為にレポート課題を設ける。					
狙いと到達目標					
・安全で自立した快適な生活環境の諸条件とその整備について理解することが出来る。 ・自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出すことや見守りを含めた適切な介護技術を用いて、安全に移乗・移動の援助を提供できる技術や知識を身に付ける。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
基本的な方法やその根拠を伝えていきたい。また、学生の学びの段階や状況に応じ、臨床経験での場面も伝え具体的な利用者や環境などをイメージできるように授業を行いたい。					
授業計画・内容			「関連科目」こころとからだのしくみⅠ		
1	生活支援における居住環境の意義と目的 ～住まいの役割と機能～		・「活動・移動」に関連したこころとからだのしくみ ・身体の骨と関節の働きのしくみ ・身体の筋肉と神経の働きのしくみ ・活動・移動の目的と生理的・心理的意味 ・移動の基本となる体位変換 ・ボディメカニクスとキネステティクス		
2	安全に暮らすための生活環境・快適な室内環境				
3	安全に暮らすための生活環境・快適な室内環境				
4	演習に関する準備 演習				
5	リネン類のたたみ方 演習				
6	ベッドメイキング 演習				
7	ベッドメイキング 演習				
8	移動技術に関する基本 演習				
9	車いすの操作 演習				
10	車いすの操作 演習				
11	基本的な体位変換① 仰臥位から側臥位 演習				
12	基本的な体位変換① 仰臥位から側臥位 演習				
13	就床者のシーツ交換 演習				
14	就床者のシーツ交換 演習				
15	科目認定試験				
評価方法	科目認定試験60%・授業内課題30%・出席率10%で評価。 総合し60点以上であること、レポートが全て提出されていること。				
自由記述 (メッセージ)	演習には必ず参加しましょう。実習着ルールに従い清潔感のある身だしなみを意識して下さい。また、積極的に参加し技術習得に向け繰り返し練習をしましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	生活支援技術3 (自立に向けた移動の介護)		必修	1年前期	15コマ・30時間
担当教員	品川智則	背景	介護福祉士職歴5年		
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール＋実習者ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ 中央法規				
授業概要					
尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出すこと、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について学習する。 「こころとからだのしくみ」を中心とした他科目での学びも関連させ、講義・演習を通して学んでいく。また、演習では援助者役・利用者役を行い学習すると共に授業内容の振り返りを行う為にレポート課題を設ける。					
狙いと到達目標					
自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出すことや見守りを含めた適切な介護技術を用いて、安全に移乗・移動の援助を提供できる技術や知識を身に付ける。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
基本的な方法やその根拠を伝えていきたい。また、学生の学びの段階や状況に応じ、臨床経験での場面も伝え具体的な利用者や環境などをイメージできるような授業展開をしたい。各学生の実習などでの学びや経験も授業に反映できるよう努める。					
授業計画・内容			「関連科目」こころとからだのしくみⅠ		
1	基本的な体位変換② 水平移動、上方移動 演習		～「活動・移動」に関連したこころとからだのしくみ～ ・からだのしくみの理解 ・移動とは 基本的な姿勢 ・移動の基本となる体位変換(仰臥位から側臥位 歩行のしくみ) ・ボディメカニクス ・廃用症候群 褥瘡 ・心身機能の低下が移動に及ぼす影響 ・変化の気づきと対応		
2	基本的な体位変換② 水平移動、上方移動 演習				
3	基本的な体位変換③ (演習) 端座位から立位への援助、立位から座位への援助演習				
4	基本的な体位変換③ (演習) 端座位から立位への援助、立位から座位への援助演習				
5	事例に基づいた具体的な援助① 演習				
6	事例に基づいた具体的な援助① 演習				
7	車いすへの移乗① 全介助における方法 演習				
8	車いすへの移乗① 全介助における方法 演習				
9	車いすへの移乗② 自立支援での車いすへの移乗 演習				
10	車いすへの移乗② 自立支援での車いすへの移乗 演習				
11	事例に基づいた具体的な援助② 演習				
12	事例に基づいた具体的な援助② 演習				
13	福祉用具について 演習				
14	福祉用具について 演習				
15	科目認定試験				
評価方法	科目認定試験60%・授業内課題30%・出席率10%で評価。 総合し60点以上であること、レポートが全て提出されていること。				
自由記述 (メッセージ)	演習には必ず参加しましょう。実習着ルールに従い清潔感のある身だしなみを意識して下さい。また、積極的に参加し技術習得に向け繰り返し練習をしましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	生活支援技術4 (自立に向けた食事の介護)		必修	1年後期	15コマ・30時間
担当教員	品川智則	背景	介護福祉士職歴5年		
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール＋実習者ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ 中央法規				
授業概要 尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出すこと、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について学習する。 「こころとからだのしくみ」を中心とした他科目での学びも関連させ、講義や基礎演習、さらには事例演習と段階を踏んで学んでいく。また、演習では援助者役・利用者役を行い学習すると共にレポート課題を設ける。学習内容によってはグループにて体験的に学べるよう授業を構成する。					
狙いと到達目標 ・心身の状態や生活文化を把握し、一人ひとりの食生活を尊重した介護の提供できる。 ・その人らしくおいしく楽しく食べられる食生活を支援するための考え方、知識を習得する。 ・食事介助、口腔ケアに関する基本的な技術を習得する。					
授業において実務経験をどのように生かすか 基本的な方法やその根拠を伝えていきたい。また、学生の学びの段階や状況に応じ、臨床経験での場面も伝え具体的な利用者や環境などをイメージできるような授業展開をしたい。各学生の実習などでの学びや経験も授業に反映できるよう努める。					
授業計画・内容				「関連科目」こころとからだのしくみⅡ	
1	食事の意義・目的 暮らしの中の食事、生活文化と食事			～「食事」に関連したこころとからだのしくみ～ ・食べるしくみと食べる姿勢 ・心身機能の低下が食事に及ぼす影響 ・変化の気づきと対応(誤嚥・窒息・嚥下障害・脱水) ・口腔ケア	
2	食事形態の工夫①(おいしさと食べやすさ) ～私たちができる関わりとは～				
3	食事形態の工夫①(おいしさと食べやすさ) ～私たちができる関わりとは～				
4	・食事形態の工夫② ・姿勢保持、認知する(見える事・見えない事)、飲む、食べる、等の基本				
5	・食事形態の工夫② ・姿勢保持、認知する(見える事・見えない事)、飲む、食べる、等の基本				
6	食事介助の基本について① ～演習を通して学びのまとめ～				
7	食事介助の基本について② ～演習を通して学びのまとめ～				
8	食事介助の基本について③ ～演習を通して学びのまとめ～				

9	口腔ケア基礎(義歯の手入れ、歯ブラシ、うがい等)教室演習	
10	口腔ケア基礎(義歯の手入れ、歯ブラシ、うがい等)教室演習	
11	事例に基づいた食事の介護(事例演習①) ロールプレイ演習事例の読み込み、準備	
12	事例に基づいた食事の介護(事例演習②) ロールプレイ演習事例の読み込み 準備	
13	事例に基づいた食事の介護(事例演習)	
14	事例に基づいた食事の介護(事例演習)	
15	科目認定試験	
評価方法	科目認定試験60%・授業内課題30%・出席率10%で評価。 総合し60点以上であること、レポートが全て提出されていること。	
自由記述 (メッセージ)	演習には必ず参加しましょう。実習着ルールに従い清潔感のある身だしなみを意識して下さい。また、全員がグループワークに参加できるよう心がけましょう(相手の話を聞く、自分の意見を伝える、等)。授業内容によっては、演習着ルール以外に持ち物があることがあります。教員のインフォメーションをよく聞き、忘れ物がないように注意してください。	

実務家教員

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	生活支援技術5 (自立に向けた身じたくの介護)		必修	1年後期	15コマ・30時間
担当教員	品川智則	背景	介護福祉士職歴5年		
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール＋実習者ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ 中央法規				
授業概要					
尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出すこと、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について学習する。介護において、身じたくにおける意義と目的を学び、その大切さについて理解すると同時に利用者の衣生活を支える介護方法や足浴・洗髪の具体的な介護方法について学びます。 「こころとからだのしくみ」を中心とした他科目での学びも関連させ、講義・演習を通して学んでいく。また、演習では援助者役・利用者役を行い学習すると共に授業内容の振り返りを行う為にレポート課題を設ける。					
狙いと到達目標					
・生活習慣と装いの楽しみを支える介護の提供ができる。 ・整容行動、衣生活を調整する能力のアセスメントと介助の技法について理解できる。 ・爽快感・安楽を支え、安全な清潔保持のため介護の提供(足浴・洗髪)ができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
基本的な方法やその根拠を伝えていきたい。また、学生の学びの段階や状況に応じ、臨床経験での場面も伝え具体的な利用者や環境などをイメージできるような授業展開をしたい。各学生の実習などでの学びや経験も授業に反映できるよう努める。					
授業計画・内容			「関連科目」こころとからだのしくみⅡ		
1	着脱の介助 目的と意義		～「身じたく」に関連したこころとからだのしくみ～ ・身じたくのしくみ ・衣生活 ・心身機能の低下が身じたくに及ぼす影響 ・変化の気づきと対応		
2	足浴(デモ)				
3	足浴(演習)				
4	足浴(演習)				
5	洗髪(デモ)				
6	洗髪(演習)				
7	洗髪(演習)				
8	自立に向けた衣服の着脱の介助(演習) かぶり型パジャマから前開き着衣への着替え				
9	自立に向けた衣服の着脱の介助(演習) かぶり型パジャマから前開き着衣への着替え				
10	衣服の着脱の介助(演習) ベッド上での着替え				
11	衣服の着脱の介助(演習) ベッド上での着替え				
12	衣服の着脱の介助(演習) 事例に基づいた具体的な援助・準備				
13	衣服の着脱の介助(演習) 事例に基づいた具体的な援助				
14	衣服の着脱の介助(演習) 事例に基づいた具体的な援助				
15	科目認定試験				
評価方法	科目認定試験60%・授業内課題30%・出席率10%で評価。 総合し60点以上であること、レポートが全て提出されていること。				
自由記述 (メッセージ)	演習には必ず参加しましょう。実習着ルールに従い清潔感のある身だしなみを意識して下さい。また、積極的に参加し技術習得に向け繰り返し練習をしましょう。授業内容によっては、演習着ルール以外に持ち物があることがあります。教員のインフォメーションをよく聞き、忘れ物がないように注意してください。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名・属性	生活支援技術6 (自立に向けた排泄の介護)		必修	1年後期	15コマ・30時間
担当教員	品川智則	背景	介護福祉士職歴5年		
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール＋実習者ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ 中央法規				
授業概要					
尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出すこと、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について学習する。排泄に関する基本知識・技術を学習した上で、障害や生活の状況に応じた介護の方法や根拠について学びます。					
「こころとからだのしくみ」を中心とした他科目での学びも関連させ、講義・演習を通して学んでいく。また、狙いと到達目標					
・介護を必要とする利用者の心身の状態・状況に応じた適切な排泄方法を理解する。 ・排泄の介護における根拠について、説明できる力を身につける。 ・人としての尊厳を保持し自立に向けた排泄介護を実践できる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
基本的な方法やその根拠を伝えていきたい。また、学生の学びの段階や状況に応じ、臨床経験での場面も伝え具体的な利用者や環境などをイメージできるような授業展開をしたい。各学生の実習などでの学びや経験も授業に反映できるように努める。					
授業計画・内容			「関連科目」こころとからだのしくみⅢ		
1	排泄の基礎知識と意義・目的～自立した排泄とは～		～「排泄」に関連したこころとからだのしくみ～ ・排泄のしくみ(排便・排尿) ・排泄に関連したこころとからだの基礎知識 ・心身の機能低下が及ぼす排泄への影響 ・生活場面におけるこころとからだの変化の気づき		
2	排泄の基礎知識と意義・目的～自立した排泄とは～				
3	利用者の状況に合わせた排泄方法と福祉用具の活用方法 ①トイレ・ポータブルトイレ 演習				
4	利用者の状況に合わせた排泄方法と福祉用具の活用方法 ①トイレ・ポータブルトイレ 演習				
5	利用者の状況に合わせた排泄方法と福祉用具の活用方法 ②便・尿器 演習				
6	利用者の状況に合わせた排泄方法と福祉用具の活用方法 ②便・尿器 演習				
7	利用者の状態に合わせた排泄方法				
8	利用者の状態に合わせた排泄方法				
9	事例から援助内容を組み立てる(事例検討) 準備				
10	事例から援助内容を組み立てる(事例検討) 準備				
11	利用者の状況に合わせた排泄方法③ オムツ 演習				
12	利用者の状況に合わせた排泄方法③ オムツ 演習				
13	事例から援助内容を組み立てる(事例検討)				
14	事例から援助内容を組み立てる(事例検討)				
15	科目認定試験				
評価方法	科目認定試験60%・授業内課題30%・出席率10%で評価。 総合し60点以上であること、レポートが全て提出されていること。				
自由記述 (メッセージ)	演習には必ず参加しましょう。実習着ルールに従い清潔感のある身だしなみを意識して下さい。また、積極的に参加し技術習得に向け繰り返し練習をしましょう。				

課程	社会福祉専門課程		学科	介護福祉科	
授業名,属性	生活支援技術7 (自立に向けた入浴・清潔保持の介護)		必修	2年前期	15コマ・30時間
担当教員	主担当 倉持有希子	背景	看護師職歴10年		
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	(本冊子冒頭) 共通ルール＋実習着ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	中央法規 介護福祉養成講座Ⅱ 生活支援技術Ⅱ				
授業概要					
ころとからだで学んだ知識を活かし、生活文化を踏まえた、安全で快適な身体清潔を保持するための方法を学習する。					
狙いと到達目標					
・安全に実施するための環境および物品、湯の取り扱い方の基本を習得する。(レポート評価)					
・利用者役体験では、快適性の他に、肌の露出、寒さ、浮力による不安定性等、不快な体験をもとに快適な方法を考察する。(レポート評価)					
・日本人独自の入浴の価値を学習し、自立を目指した身体清潔の実践を通して、生活をよりよくするための生活支援について考える。(レポート評価)					
授業において実務経験をどのように生かすか					
基本的な清拭方法、入浴方法を座学で学んだ後で、安全と快適性、自立を踏まえた環境調整及び支援方法等について、体験を重視し、現場を想定しながら学べるようにする。					
授業計画・内容					
1	講義 清潔保持の意義・目的の理解 ころとからだのしくみのふりかえり				
2	全身清拭演習① 適切な物品の扱い方、拭き方の基本の習得				
3	全身清拭演習② 適切な物品の扱い方、拭き方の基本の習得				
4	講義 全身清拭演習のデモンストレーション(ポイントを				
5	全身清拭演習③ 実際に石けんを使つての全身清拭				
6	全身清拭演習④ 実際に石けんを使つての全身清拭				
7	講義 入浴介護 入浴の意義・目的の理解 家庭浴槽での介護の基本確認				
8	講義 入浴介護 機械浴槽での介護の基本確認				
9	家庭浴槽・機械浴槽演習① 課題学習①				
10	家庭浴槽・機械浴槽演習② 課題学習②				
11	家庭浴槽・機械浴槽演習③ 課題学習③				
12	家庭浴槽・機械浴槽演習④ 課題学習④				
13	家庭浴槽・機械浴槽演習⑤ 課題学習⑤				
14	課題学習発表				
15	科目認定試験				
評価方法	科目認定試験・レポートにおいて60点以上で合格。演習レポート(4項目)は全て提出する。				
自由記述 (メッセージ)	身体の清潔は生活支援に欠かせません。丁寧に適切な支援により、信頼関係も深まります。また、利用者体験は安心、安全、プライバシーの観点からも重要です。積極的な参加を望んでいます。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	生活支援技術8 (自立に向けた家事の介護)		必修	2年後期	15コマ・30時間
担当教員	海老原美緒	背景	日本女子大学家政学部家政経済学科 助手		
授業形態	講義・演習	実務家教員 でない			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ 中央法規				
授業概要					
家事の介助の技法を学び、自立に向けた家事の介助の技法を学ぶ					
狙いと到達目標					
・尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重した、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた、適切な介護技術を用いて安全に援助できる技術や知識について、修得する学習とする。 ・衣食住・生活・生活管理について理解し、利用者の生活問題を解決するために必要な知識を身につける。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
家庭科教育の知識や、普段の実生活の経験を生かしながら、利用者が快適に衣食住生活を送るために、どのような基本的知識が有効かを考え、整理して実践できるようにする。					
授業計画・内容					
1	家庭生活にかかわる基本知識と家事の意義				
2	家事の介助の技法 掃除・ごみ捨て				
3	家事の介助の技法 掃除・ごみ捨て	実習			
4	家事の介助の技法 衣類・寝具の衛生管理				
5	家事の介助の技法 衣類・寝具の衛生管理	実習			
6	家事の介助の技法 洗濯				
7	家事の介助の技法 洗濯	実習			
8	家事の介助の技法 裁縫				
9	家事の介助の技法 買い物				
10	家事の介助の技法 買い物	実習			
11	家事の介助の技法 家庭経営				
12	家事の介助の技法 家庭経営	実習			
13	家事の介助の技法 加工食品				
14	全体のまとめ				
15	科目認定試験				
評価方法	1. 出席 2. 5回の実習(グループワーク)と裁縫の提出 3. テスト				
自由記述 (メッセージ)	基本的に変わらない部分も多いですが、時代の変化を敏感に察知して利用者が快適かつ安心だと思う家事支援をすることが大切だと思います。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	生活支援技術9(睡眠の介護) (レクリエーション活動援助法)		必修	2年前期	15コマ30時間
担当教員	平山純子／吉田真衣 教員歴24年／介護福祉士職歴6年				
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ 中央法規				
授業概要	○休息・睡眠の重要性を学び、安眠のための支援を理解する。 ○レクリエーションの重要性を学び、利用者の生活の活性化に向けた支援を理解する。授業は、講義・実技交流・映像学習・グループワークを含みます。				
ねらいと到達目標					
○人間にとっての休息・睡眠の意味を理解し、その重要性が理解できる。 安眠をうながすための、基本的な支援方法が理解できる。 ○レクリエーションやアクティビティ・サービスの意味とその重要性を理解できる。 生活の活性化に向けた、基本的な支援方法について学ぶことができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
日常生活にとっての休息・睡眠の重要性を人体のしくみの知識をもとに生活支援技術に生かす。					
授業計画・内容					
1	休息・睡眠とは				
2	睡眠障害				
3	安眠を阻害する要因				
4	安眠をうながすための介護 ① 介護福祉職がすべきこと				
5	安眠をうながすための介護 ② 介護福祉職がすべきこと				
6	高齢者の睡眠の特徴				
7	休息・睡眠の介護 ① 室内環境				
8	休息・睡眠の介護 ② 寝台				
9	睡眠障害とその支援				
10	多職種との連携				
11	レクリエーション活動援助法① 復習:リアクションペーパーの記入 講義:レクリエーションとは／DVD学習／実技:レクリエーションの流れ・リアリティオリエンテーション				
12	レクリエーション活動援助法② 予習:資料『アクティビティ・サービスとは』を読む／復習:リアクションペーパー記入 講義:アクティビティ・サービスとは／実技:季節のレクリエーション				
13	レクリエーション活動援助法③ 復習:グループワーク課題に取り組む 講義:日本の年中行事・長寿の祝い・季節の歌／DVD学習／グループワーク:年中行事を調べよう				
14	レクリエーション活動援助法④ 予習:発表に向けた準備／復習:リアクションペーパーの記入 グループワーク:年中行事について発表／実技:実習に向けて～歌レク・体操・脳トレなど～				
15	科目認定試験				
評価方法	睡眠の介護:70点分(科目認定試験・レポート) レクリエーション活動援助法:30点分(科目認定試験・提出物) 合計60点 以上で合格とする				
自由記述 (メッセージ)	・睡眠の意味、そしてその重要性を理解し、安眠への支援につなげることができるようになってほしい。 ・個々の利用者が豊かに生活できるような支援について考えていきましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	生活支援技術10(人生の最終段階における介護)(レクリエーション活動援助法)		必修	2年後期	15コマ30時間
担当教員	平山純子／吉田真衣		教員歴24年／介護福祉士職歴6年		
授業形態	講義・演習		実務家教員 である		
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ 中央法規				
授業概要					
人生の最終段階におけるケアの意味や死をむかえる人の介護、亡くなったあとの介護について学ぶ。					
狙いと到達目標					
・人生の最終段階について理解し、死をむかえる人の介護、死をむかえた人の介護が理解できる。 ・レクリエーション活動援助の技術と理論(根拠)について理解する。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
人生の最終段階の意味を考え、理解していくことができ、それを生活支援に生かしていける。					
授業計画・内容					
1	人生の最終段階の意義				
2	人生の最終段階におけるケアの意味				
3	人生の最終段階におけるケアの意味ケアがめざすもの ①				
4	人生の最終段階におけるケアの意味ケアがめざすもの ②				
5	尊厳死、安楽死について考える				
6	尊厳死について				
7	安楽死について				
8	死をむかえる人の介護、死をむかえた人の介護				
9	家族への支援				
10	人生の最終段階における多職種との連携				
11	レクリエーション活動援助法① 復習:グループワーク課題に取り組む 講義:アクティビティ・プログラム／個人・グループワーク:アクティビティに特化した実習Ⅱの振り返り／実技交流				
12	レクリエーション活動援助法② 予習:資料『アクティビティ・サービス計画 具体的な立案方法』を読む／復習:グループワーク課題に取り組む グループワーク:実習Ⅱの振り返り発表／講義:アクティビティ・サービス計画の立案方法／グループワーク:アクティビティ・サービス計画の立案				
13	レクリエーション活動援助法③ 予習・復習:グループワーク課題に取り組む(Googleクラスルーム活用) グループワーク:アクティビティ・サービス計画の立案				
14	レクリエーション活動援助法④ 予習:グループワーク課題を期日までに提出(Googleクラスルーム活用) グループワーク:アクティビティ・サービス計画について発表(リアクションペーパーあり)				
15	科目認定試験				
評価方法	睡眠の介護:70点分(科目認定試験・レポート) レクリエーション活動援助法:30点分(科目認定試験・提出物) 合計60点 以上で合格とする				
自由記述 (メッセージ)	・限りある生を、尊厳を尊重し、最期までその人らしく生きることができる支援について考えていきましょう。 ・人生のどの段階においても、個々の利用者が豊かに生活できるような支援について考えていきましょう。				

実務家教員

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	介護過程Ⅰ		必修	1年後期	15コマ・30時間
担当教員	星 浩一	背景	介護福祉士職歴5年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	介護過程	建帛社			
授業概要					
他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。					
狙いと到達目標					
・介護過程の意義、目的を理解する ・アセスメントの基本を理解する ・問題解決思考により事例を展開する					
授業において実務経験をどのように生かすか					
介護福祉士としての現場でのアセスメント→計画立案→実施→評価の介護過程の思考過程を活かし伝えていきたい。					
授業計画・内容					
1	介護過程とは				
2	生活って何だろう				
3	かかわりって何だろう				
4	課題解決思考について理解する①				
5	課題解決思考について理解する②				
6	介護過程を理解する				
7	情報収集とは①				
8	情報収集とは②				
9	介護過程とICF				
10	介護事例を展開する①				
11	介護事例を展開する②				
12	介護事例を展開する③				
13	介護事例を展開する④				
14	介護事例を展開する⑤				
15	科目認定試験				
評価方法	①小テスト×4回 20% ②レポート等課題2回 20% ③科目認定試験 60%				
自由記述 (メッセージ)	思考過程に沿った介護は専門職の行う介護です。多職種連携や家族への説明にも欠かせない内容になります。しっかりと学習しましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	介護過程Ⅱ		必修	1年後期	15コマ・30時間
担当教員	品川智則	背景	介護福祉士職歴5年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	介護過程 建帛社				
授業概要					
介護過程Ⅰで学んだ介護過程の基礎的知識を活用し、介護過程の思考過程、実践過程について理解をする。他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。					
狙いと到達目標					
・介護過程におけるアセスメントの思考の流れを理解する。 ・介護過程の全体像を理解する ・介護過程の各プロセスで求められる思考の方法を理解する。 ・介護過程の展開において諸科目の知識を統合する必要性を理解する。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
私は、介護現場において、利用者の心身の状況に応じた介護を実践するために、利用者を多角的な視点で全体を把握し、その時々で必要なかわりには何か考え判断し実践してきた。多様な利用者との関わりから得られた経験を、介護過程における思考過程、実践過程等を教授する際にいかしていきたい。					
授業計画・内容					
1	科目オリエンテーション 介護過程の基礎知識				
2	介護過程とケアマネジメントの関係性				
3	ICFの視点をいかした介護過程の実践①				
4	ICFの視点をいかした介護過程の実践②				
5	ICFの視点をいかした介護過程の実践③				
6	事例演習① アセスメント(情報収集)				
7	事例演習② アセスメント(情報収集)				
8	事例演習③ アセスメント(情報の解釈・関連づけ・統合)				
9	事例演習④ アセスメント(情報の解釈・関連づけ・統合)				
10	事例演習⑤ アセスメント(課題の明確化)				
11	事例演習⑥ アセスメント(課題の明確化)				
12	事例演習⑦ 計画の立案(長期目標・短期目標)				
13	事例演習⑧ 計画の立案(具体的援助計画)				
14	まとめ				
15	科目認定試験				
評価方法	授業内の課題30%、平常点10%、科目認定試験結果60%として、60点以上で合格とする。				
自由記述 (メッセージ)	介護過程の科目はすべての科目を統合したものですので、様々なテキストを調べられるように普段から関連する資料なども含めて整理しておきましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	介護過程Ⅲ		必修	1年後期	15コマ・30時間
担当教員	品川智則	背景	介護福祉士職歴5年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	介護過程 建帛社				
授業概要					
介護過程Ⅰで学んだ介護過程の基礎的知識を活用し、介護過程の思考過程、実践過程について理解をする。他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。					
狙いと到達目標					
・介護過程におけるアセスメントの思考の流れを理解する。 ・介護過程の全体像を理解する ・介護過程の各プロセスで求められる思考の方法を理解する。 ・介護過程の展開において諸科目の知識を統合する必要性を理解する。 ・基礎的な知識を活用し、心身の状況に応じた介護過程の展開について理解する					
授業において実務経験をどのように生かすか					
私は、介護現場において、利用者の心身の状況に応じた介護を実践するために、利用者を多角的な視点で全体を把握し、その時々で必要なかわりには何か考え判断し実践してきた。多様な利用者との関わりから得られた経験を、介護過程における思考過程、実践過程等を教授する際にいかしていきたい。					
授業計画・内容					
1	事例演習① 事例の把握				
2	事例演習② 情報収集 情報収集シートへの記入				
3	事例演習③ 情報収集 情報収集シートへの記入に関するフィードバック				
4	事例演習④ 事前学習 事例の理解を深めるための基礎的知識について整理する				
5	事例演習⑤ 利用者の生活の全体像を理解する(ICFの視点で整理する)				
6	事例演習⑥ 利用者の生活の全体像を理解する				
7	事例演習⑦ 注目する情報について(注目する情報についてグループワークで考える				
8	事例演習⑧ 注目する情報について(注目する情報についてグループワークで考える				
9	事例演習⑨ 注目する情報について				
10	事例演習⑩ アセスメント(情報の解釈)				
11	事例演習⑪ アセスメント(情報の解釈)				
12	事例演習⑫ アセスメント(統合)				
13	事例演習⑬ アセスメント(統合)				
14	事例演習⑭ 計画の立案				
15	事例演習⑮ まとめ				
評価方法	授業内の課題60%、平常点40%、として、60点以上で合格とする。				
自由記述 (メッセージ)	介護過程の科目はすべての科目を統合したものですので、様々なテキストを調べられるように普段から関連する資料なども含めて整理しておきましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	介護過程Ⅳ		必修	2年通年	30コマ・60時間
担当教員	品川智則	背景	YMCA教員歴10年以上		
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	介護過程 建帛社				
授業概要					
他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。					
狙いと到達目標					
・様々な利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開を理解し、適切にシートに記入することができる。 ・根拠に基づいた介護計画を作成することができる。 ・介護計画の実践内容の書き方、評価・考察について理解することができる。 （シートの記入については介護総合演習で学習する。）					
授業において実務経験をどのように生かすか					
実務経験を介護過程を展開する方法や根拠と結びつけ指導につなげている。					
授業計画・内容					
1	教科書事例をもとに介護過程を展開する①	16	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑯		
2	教科書事例をもとに介護過程を展開する②	17	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑰		
3	教科書事例をもとに介護過程を展開する③	18	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑱		
4	教科書事例をもとに介護過程を展開する④	19	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑲		
5	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑤	20	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑳		
6	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑥	21	教科書事例をもとに介護過程を展開する㉑		
7	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑦	22	教科書事例をもとに介護過程を展開する㉒		
8	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑧	23	教科書事例をもとに介護過程を展開する㉓		
9	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑨	24	教科書事例をもとに介護過程を展開する㉔		
10	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑩	25	介護過程の展開実習への準備①		
11	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑪	26	介護過程の展開実習への準備②		
12	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑫	27	介護過程の展開実習への準備③		
13	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑬	28	ショート事例の展開①		
14	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑭	29	ショート事例の展開②		
15	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑮	30	ショート事例の展開③		
評価方法	①出席点 20% ②提出物10回 80%				
自由記述 (メッセージ)	筆記試験はありませんが、出席、提出物を重要視します。 事例の展開内容記入時は、複数の教員と一緒に指導します。				

実務家教員

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	介護総合演習Ⅰ		必修	1年通年	30コマ60時間
担当教員	品川智則他		背景	YMCA専任教員	
授業形態	実習		実務家教員である		
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習				
授業概要					
介護実習に向けて心構え、予備知識、動機づけ等の準備を行い、介護実習中には実践力を身につけることができるような学びとする。また、実習終了後には、体験した内容を知識と照らし合わせ、個人による振り返り、グループワーク、発表を通して互いに学びあう。					
狙いと到達目標					
・実習Ⅰ－1、Ⅰ－2、Ⅰ－3それぞれのねらいを説明できる。 ・達成可能な実習目標を立てることができる。 ・実習の心構えを説明できる。 ・実習記録の基本的な書き方が分かる。 ・実習の体験を知識と結び付けることができる。 ・他の学生の実習での学びを理解することができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
実務経験をもとに、学生の実習での体験と知識を結び付けるための授業を組み立てる。					
授業計画・内容					
1 介護実習の目的、実習Ⅰ－1とは			16 実習についての心構え・マナーについて		
2 実習先の概要について学ぶ①			17 実習Ⅰ－2の振り返りグループワーク①		
3 実習先の概要について学ぶ②			18 実習Ⅰ－2の振り返りグループワーク②		
4 実習記録の書き方、他実習準備			19 実習Ⅰ－2の振り返りグループワーク③		
5 実習についての心構え・マナーについて			20 実習Ⅰ－2の振り返り 発表		
6 実習での学びについてのまとめ			21 記録の書き方①		
7 実習での学びの共有(グループディスカッション)			22 記録の書き方②		
8 実習での学びの共有(全体発表)			23 実習についての心構え・マナーについて		
9 実習Ⅰ－2とは			24 実習Ⅰ－3を振り返る		
10 記録の書き方①			25 実習Ⅱに向けての準備をグループで考える①		
11 記録の書き方②			26 実習Ⅱに向けての準備をグループで考える②		
12 現場の指導者からの学び①			27 実習Ⅱに向けての準備をグループで考える③		
13 現場の指導者からの学び②			28 実習Ⅱに向けての準備をグループで考える④		
14 地域生活支援について学ぶ①			29 2年生を交えてのシンポジウム		
15 地域生活支援について学ぶ②			30 2年生を交えてのシンポジウム		
評価方法					
① 出席点 10% ② 授業内リアクションペーパーによる授業参加度 40% ③ レポート課題、その他提出物 50%					
自由記述(メッセージ)					
介護総合演習を通して、実習をどのように準備するか、また、実習で体験したことの意味をどう考えるかによっては、自分自身の成長に影響を及ぼします。前向きな参加を希望します。					

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	介護総合演習Ⅱ		必修	1年通年	30コマ60時間
担当教員	品川智則 他		背景	YMCA専任教員	
授業形態	実習	実務家教員である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	介護総合演習Ⅰを履修し、実習の準備が整っている者				
教科書等	介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習				
授業概要					
・実習Ⅱにおける介護過程展開の実践を効果的に進めるために実習に必要な知識技術、介護過程展開能力を身につける。 ・実習Ⅱ終了後、介護過程全体を振り返り卒業研究論文を作成・発表する。 ・実習Ⅰ、Ⅱを終了して、多様な生活の場での利用者の生活過程について、グループディスカッションから理解を深める。					
狙いと到達目標					
・個々の利用者のニーズを把握した上で介護実践し評価することができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
実務経験をもとに、介護計画作成、実施、評価等の指導について、個々の学生に合わせた指導を実践する。					
授業計画・内容					
1. 2年生における介護総合演習の流れ		16受け持ち利用者に関するアセスメント			
2. 個人票の記入 実習先の理解		17受け持ち利用者に関するアセスメント			
3. 実習をイメージする 目標の下書き①		18受け持ち利用者に関するアセスメント			
4. 実習をイメージする 目標のの下書き②		19受け持ち利用者に関するアセスメント			
5. 実習をイメージする 目標のの下書き③		20受け持ち利用者に関するアセスメント			
6. 目標の完成		21卒業研究とは			
7. 記録の書き方①		22卒業研究論文の作成			
8. 記録の書き方②		23卒業研究論文の作成			
9. 記録の書き方③		24卒業研究論文の作成			
10. 記録の書き方④		25抄録の書き方			
11. 実習諸注意		26抄録作成①			
12受け持ち利用者に関するアセスメント		27抄録作成②			
13受け持ち利用者に関するアセスメント		28卒業研究発表会の運営について			
14受け持ち利用者に関するアセスメント		29卒業研究発表会			
15受け持ち利用者に関するアセスメント		30卒業研究発表会			
評価方法					
① 出席点 ② レポート課題、演習内容の達成 ③ 卒業研究論文の提出 ④ 卒業研究発表					
自由記述 (メッセージ)		実習Ⅱで介護過程の展開実習を実践しますが、アセスメントから介護計画の立案、実施、評価と、卒業研究発表までが介護総合演習の内容となります。学校での学びの全ての集大成がこの授業になります。最後までやり抜きましょう。			

実務家教員

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	実習Ⅰ		必修	1年通年	208時間
担当教員	品川智則 他	背景	YMCA専任教員		
授業形態	実習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール(Ⅰ-2 Ⅰ-3は実技試験に合格していること)＋原則実習着着用				
受講条件	介護総合演習Ⅰを履修し、実習の準備が整っている者				
教科書等	授業で使用している様々な教科書、配布プリント等				
授業概要 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。					
狙いと到達目標 ・実習施設・事業等の実際を体験し、施設等の機能を理解する。 ・他職種協働について見学、体験する。 ・コミュニケーションを通し、利用者の理解を深めることができる。 ・生活支援技術について根拠に基づいた方法を実践できる。 ・利用者の様子が読み取れる記録を書くことができる。 ・利用者の1日の暮らしを理解し記録することができる。 ・地域における生活支援を実践的に学習することができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 実習指導における根拠に基づいた介護実践に生かす。					
授業計画・内容					
実習Ⅰ－1 コミュニケーションを中心とした5日間の実習					
実習Ⅰ－2 利用者理解、他職種協働、生活支援技術等の実践を含む10日間の実習					
実習Ⅰ－3 実習Ⅰ－2の内容の他に、利用者の1日の過ごし方を観察し、実習Ⅱの個別援助計画を立てる実習につながるものとする。 家族・近隣・地域に目を向ける実習とする。 11日間					
評価方法					
○ 実習規定日数を終了していること ○ 期限内に記録が提出されている ○ 実習先の実習評価、記録をもとに評価する					
自由記述 (メッセージ) 実習は利用者の方々と触れ合うなかで、自分の可能性や課題に気づく場となります。また、様々な職種の方々との連携を直接体験し、施設・事業所の理解を深めます。自分の未来の働く姿を思い描きながら、有意義な実習になるようがんばっていきましょう。					

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	実習Ⅱ		必修	2年通年	248時間
担当教員	品川智則他	背景	YMCA専任教員		
授業形態	実習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール(実技試験合格、事前オリエンテーション)＋実習着着用				
受講条件	介護総合演習Ⅱを履修し、実習の準備が整っている者				
教科書等	授業で使用している様々な教科書、配布プリント等				
授業概要					
個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程の展開を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。					
狙いと到達目標					
・個々の利用者の生活背景や生活リズムを理解しすることができる。 ・利用者についてニーズに関連する情報を収集し、ニーズを明らかにすることができる。 ・上記のアセスメントをもとに、介護計画を実践、評価することができる。 ・サービス担当者会議やケースカンファレンスを通して、多職種協働の中での介護福祉士の役割を理解する。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
様々な生活背景があり、老いやしょうがいと共に暮らす利用者への個別計画の立案、実践について、個々の学生に応じた指導を行う。					
授業計画・内容					
実習先決定後、事前に1日体験を実施し、実習施設の理念や沿革を理解し、配属フロアのオリエンテーションを受ける。					
実習Ⅱ－1 15日間 利用者を決め、介護計画を立案する。帰校日1日あり。					
実習Ⅱ－2 15日間 介護計画の実践、評価 帰校日1日、夜勤実習1日あり。					
介護過程展開のプロセスの中で、多職種協働について学習する。 ・ケアカンファレンスやサービス担当者会議に参加する。					
評価方法	○ 受け持ち利用者への個別援助計画の立案、実施、評価ができる ○ 実習規定日数を終了している ○ 期限内に記録が提出されている ○ 実習先の実習評価、記録をもとに評価する				
自由記述 (メッセージ)	これまでの授業、実習の全ての集大成となります。最後までやり抜くことが、今後の仕事をやる上での自信にもつながります。がんばっていきましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	発達と老化の理解Ⅰ		必修	1年前期	15コマ30時間
担当教員	平山純子	背景	看護師職歴8年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉養成講座 12 発達と老化の理解 中央法規出版				
授業概要					
介護を必要とする人の理解を深めるため、人間の成長と発達の観点から人の一生についての知識を習得する。					
狙いと到達目標					
・成長・発達の原則や影響する要因など基礎的知識が理解できる。 ・ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題および特徴的な疾病について 理解できる。 ・老年期の特徴と発達課題について理解する。					
授業において実務経験をどのように生かすか 人間の成長と発達の過程を人体のしくみの基礎的知識を活用して理解できるようにしていく。					
授業計画・内容					
1	人間の成長と発達の考え方				
2	成長・発達の原則的・法則				
3	成長・発達に影響する要因 ①				
4	成長・発達に影響する要因 ②				
5	発達理論				
6	発達段階と発達課題				
7	各発達段階				
8	身体的機能の成長と発達				
9	発達にともなう特徴的な疾病や障害				
10	心理的機能の発達				
11	社会的機能の発達 ① 社会性の発達				
12	社会的機能の発達 ② 愛着理論				
13	老年期の定義と発達課題				
14	老年期をめぐる今日的課題				
15	科目認定試験				
評価方法	科目認定試験と小テストの合計点が60点以上を合格とする				
自由記述 (メッセージ)	成長・発達の過程を誕生から老年期にいたるまでの人の一生についての知識を持つことは介護において重要なことです。生涯発達の段階を理解していきましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	発達と老化の理解Ⅱ		必修	1年後期	15コマ30時間
担当教員	小針臣子	背景	看護師	教育歴7年	
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉養成講座12 発達と老化の理解 中央法規出版 最新介護福祉養成講座11 こころとからだのしくみ 中央法規出版 参考書・・・中央法規 介護福祉士 国試ナビ 配布資料あり				
授業概要					
人の一生を「人間の成長と発達の基礎的理解」を習得し、成長・発達の観点から老化を理解して「老化に伴うこころとからだの変化と生活」につなげ、介護実践に生かせる授業にしたい。 実務経験をもとに、具体的にイメージできるような内容とする。					
狙いと到達目標					
・老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化と、それらがどのように生活に影響を与えるかについて理解できる。 ・高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的知識を理解できる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
生活している対象者の状況、心身の変化とそこからくる課題について、実務経験をもとに、具体的にイメージできるような内容とし、介護福祉専門職としてのかかわりを学習者が考えられるようにしたい。					
授業計画・内容					
1	加齢による生理機能の全体的低下 身体機能の低下①(骨格・筋系)				
2	身体機能の低下②(脳・神経系、感覚器系)				
3	身体機能の低下③(血液・循環器系、呼吸器、消化器)				
4	身体機能の低下④(腎・泌尿器免疫系、生殖器、内分泌・代謝系、免疫系)				
5	老化に伴う心理的な変化と生活への影響				
6	老化に伴う社会的な変化と生活への影響				
7	健康長寿に向けての健康、高齢者に多い症状・疾患の特徴				
8	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点①骨格・筋系、脳・神経系				
9	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点②皮膚・感覚器系、循環器系				
10	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点③呼吸器系、消化器系				
11	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点④腎・泌尿器系、内分泌・代謝系				
12	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑤歯・口腔疾患、悪性新生物				
13	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑥感染症、精神疾患、その他				
14	保健医療職との連携 授業の振り返り				
15	科目認定試験				
評価方法	科目認定試験と小テスト、及び課題の合計点が60点以上を合格とする。 提出課題、授業参加度も加味する。				
自由記述 (メッセージ)	生活支援技術および介護過程の展開における根拠となる知識を習得し、人生のあらゆる段階、とくに老年期にある人を広い視野で理解し、尊厳の保持や自立支援をふまえた介護実践につなげてほしい。 配布資料はファイル等に整理し、授業に臨むこと。 関連する「こころとからだのしくみ」に関して概要項目は復習して授業に臨むこと。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	認知症の理解Ⅰ		必修	1年後期	15コマ・30時間
担当教員	吉田真衣	背景	介護福祉士職歴6年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉士養成講座第13巻 認知症の理解 中央法規				
授業概要					
認知症の基礎的理解、特に認知症の中核症状・BPSDについて理解を深め、尊厳に配慮したケアとは何かについて考える。また、医学的・心理的側面から、認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を理解する。					
狙いと到達目標					
・「認知症とは何か」ということを簡潔に、家族や関係者や地域で説明ができる。 ・4大認知症やケアの基本について説明できる。 ・「こころとからだ」の領域にある意味について理解できる。 ・ケアは、いろいろな職種の人たちとの連携によって行われることが説明できる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
学生の学習段階や状況に応じて臨床経験の具体的な事例を提供し、利用者や場面を具体的にイメージできるよう授業を構成する。また、具体例を交えた課題や基本技術の理解促進を目的とした演習を実施する。さらに、各学生の実習で得られた知識や経験を授業内容に適宜反映するよう努める。					
授業計画・内容					
1	認知症とは何か	授業内:課題あり(要提出)		復習:授業資料の再読	
2	脳のしくみ・認知症と区別すべき状態について 予習:教科書p14-25を読む・復習:授業資料の再読				
3	認知症の人の心理	予習:教科書p27-30を読む・授業内:課題あり(要提出)			
4	中核症状①予習:教科書p34-41を読む・復習:復習シートに取り組む(次回提出)				
5	中核症状② 予習:前回の振り返り(復習シート使用)				
6	生活障害の理解 講義・グループワーク 予習:教科書p42-47を読む・復習:授業資料の再読				
7	BPSDの理解 予習:教科書p49-63を読む・復習:授業資料の再読				
8	認知症の原因疾患と症状・生活障害①～アルツハイマー型認知症～ 予習:教科書 p 78-81を読む・復習:リアクションペーパーの記入				
9	認知症の原因疾患と症状・生活障害②～血管性認知症～ 予習:教科書p81-83を読む・復習:リアクションペーパーの記入				
10	認知症の原因疾患と症状・生活障害③～レビー小体型認知症～ 予習:教科書p83-85を読む・復習:リアクションペーパーの記入				
11	認知症の原因疾患と症状・生活障害④～前頭側頭型認知症～/実習Ⅰの振り返り グループワーク・講義 予習:教科書p86-88を読む				
12	認知症の原因疾患と症状・生活障害⑤～治療可能な認知症・その他の認知症・若年生認知症～ 予習:教科書p88-94を読む・復習:資料の再読				
13	認知症の診断と重症度 予習:教科書p65-75を読む・復習:授業資料の再読				
14	認知症の治療薬、認知症の予防 1年生のまとめ 予習:教科書p96-101、103-106を読む・復習:授業資料の再読				
15	科目認定試験				
評価方法	科目認定試験が60点以上で合格 (課題なども考慮)				
自由記述 (メッセージ)	認知症の方に対して共感力を高めるためには、相手の立場に立って考える姿勢はもちろん、認知症に関する知識を深め、病気がどのように日常生活に影響を与えるのかを知ることが大切です。他科目や実習での学びも合わせ、実践に繋げていきましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	認知症の理解Ⅱ		必修	2年前期	15コマ・30時間
担当教員	主担当 吉田真衣	背景	介護福祉士職歴6年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉士養成講座第13巻 認知症の理解 中央法規				
授業概要					
認知症の理解Ⅰでの学びを土台に、認知症ケアの理念と実際(パーソン・センタード・ケア、コミュニケーションの工夫、日常生活の支援方法、終末期ケアなど)について深く学びます。また、認知症ケアに関わる家族や介護職員への支援策、地域での生活を支える制度や多職種連携の取り組みについても学習します。 認知症の人々が安心して生活できる社会を支えるための知識と技術を学びましょう。					
狙いと到達目標					
・認知症当事者が語り行動する意味について考える。 ・認知症の人の様々な生活の場や介護、連携と協働について学ぶ。 ・グループで事例の検討や、介護過程的な発表ができる。 ・最終学年生として、認知症の原因疾患や評価、症状や認知症ケアなどのついて説明や応用ができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
学生の学習段階や状況に応じて臨床経験の具体的な事例を提供し、利用者や場面を具体的にイメージできるように授業を構成する。また、具体例を交えた課題や基本技術の理解促進を目的とした演習を実施する					
授業計画・内容					
1	認知症を取り巻く状況 これまで—今—これから				(吉田)
2	認知症ケアの理念と視点				(吉田)
3	認知症当事者の視点からみえるもの				(吉田)
4	パーソン・センタード・ケア				(吉田)
5	認知症の人の理解と特性をふまえたアセスメント・ツール				(品川)
6	認知症の人とのコミュニケーション				(吉田)
7	認知症の人へのケア				(星)
8	認知症の人へのさまざまなアプローチ				(星)
9	認知症の人の終末期医療と介護				(倉持)
10	環境づくり				(吉田)
11	家族への支援(ヤングケアラー含む)				(品川)
12	介護福祉職への支援				(渡邊)
13	制度、サービス、機関、地域づくり				(渡邊)
14	多職種連携と協働				(渡邊)
15	科目認定試験				
評価方法	科目認定試験が60点以上で合格(課題、小テストなども加味)				
自由記述 (メッセージ)	この科目は、オムニバス形式で様々な先生から授業を受ける機会があり、各先生による多様な視点や知識、経験を学ぶことができます。認知症ケアに関する理論はもちろん、実践的なアプローチも学んでいきましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	障害の理解Ⅰ		必修	2年前期	15コマ・30時間
担当教員	倉持有希子	背景	臨床職歴 10 年		
授業形態	講義、グループワーク	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	①中央法規出版 最新介護福祉養成講座 14 障害の理解 ②中央法規出版 最新介護福祉養成講座 8 生活支援技術Ⅲ				
授業概要					
障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。					
狙いと到達目標					
・障害のある人のことや身体機能・障害に対する理解と支援方法を学び、具体的に考えを述べる。 ・本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点と生活支援を理解する。 ・グループワークで自分の体験や考えを述べるとともに、他者の体験や考えを共有する。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
教員自らの、障害と共に暮らす人たちへの支援を活かし、生活支援の実践につなげられるようにする。					
授業計画・内容					
1	障害の概念と障害者福祉の基本理念を理解する。				
2	障害者福祉に関連する制度について理解する。				
3	肢体不自由の基礎的理解と特性の応じた支援を学ぶ。				
4	視覚障害の基礎的理解と特性の応じた支援を学ぶ。				
5	聴覚障害の基礎的理解と特性の応じた支援を学ぶ。				
6	言語障害の基礎的理解と特性の応じた支援を学ぶ。				
7	中間テストとこれまでの振り返り				
8	内部障害1. 心臓機能障害の基礎的理解と特性の応じた支援について学ぶ。				
9	内部障害2. 呼吸機能障害の基礎的理解と特性の応じた支援について学ぶ。				
10	内部障害3. 腎機能障害の基礎的理解と特性の応じた支援について学ぶ。				
11	内部障害4. 膀胱機能障害の基礎的理解と特性に応じた支援について学ぶ。				
12	内部障害5. 小腸機能障害の基礎的理解と特性に応じた支援について学ぶ。				
13	内部障害6. ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害の基礎的理解と特性に応じた支援について学ぶ。				
14	内部障害7. 肝臓機能障害の基礎的理解と特性に応じた支援について学ぶ。				
15	科目認定試験				
評価方法	中間テストと科目認定試験において総合的に判断し、60点以上で合格とする。				
自由記述 (メッセージ)	障害の特徴、障害と共に暮らす状況や心理、社会保障制度等を総合的に理解することは、真に利用者の方々に寄り添える支援につながっていくと思います。丁寧に学習していきましょう。				

課程	社会福祉専門課程		学科	介護福祉科	
授業名,属性	障害の理解Ⅱ			必修	2年後期
担当教員	小針 臣子		背景	看護師 教育歴7年	
授業形態	講義、グループワーク	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	①中央法規出版 最新介護福祉養成講座 14 障害の理解 ②中央法規出版 最新介護福祉養成講座 8 生活支援技術Ⅲ 参考書・・・中央法規 介護福祉士 国試ナビ 配布資料あり				
授業概要					
各障害に関する医学的・心理的側面の基礎を理解し、障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援のための基礎的知識を習得する。					
狙いと到達目標					
・障害のある人のところや身体機能に関する基礎的知識が理解できる。 ・障害のある人の心理や生活体験を感じることができる。 ・本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点と生活支援技術を理解できる。 ・グループワークで自分の体験や考えを述べるとともに、他者の体験や考えを共有できる。 ・グループワークで、他者の個性や多様性を感じ、自他の相違を認めることができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
臨床経験での症例や自身の体験および社会的関心の高い事象を織り込みながら、授業を展開していく。受講生が既習知識や実習での体験を想起し、具体的に考えイメージしながら、主体的に授業に臨めるようにしていきたい。					
授業計画・内容					
1	障害の理解Ⅱ 授業概要の説明 障害のある人の心理				
2	重複障害のある人の理解と生活支援				
3	重症心身障害のある人の理解と生活支援				
4	知的障害のある人の理解				
5	知的障害のある人の生活と支援				
6	精神障害のある人の理解				
7	精神障害のある人の生活と支援				
8	高次脳機能障害のある人の理解				
9	高次脳機能障害のある人の生活と支援				
10	発達障害のある人の理解				
11	発達障害のある人の生活と支援				
12	難病のある人の理解				
13	難病のある人の生活と支援				
14	連携と家族支援				
15	科目認定試験 授業のふりかえり				
評価方法	科目認定試験、小テスト、課題の評定の合計が60点以上で合格 授業・授業参加度を加味し、総合的に評価する。				
自由記述 (メッセージ)	本授業で理解した各障害に関する医学的・心理的側面の基礎的知識と環境との関係から個別の課題を抽出し、介護支援に活用できることを期待する。 配布資料はファイル等に整理し、授業に臨むこと。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	こころとからだのしくみⅠ		必修	1年前期	15コマ30時間
担当教員	善平弘子	背景	看護師職歴9年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ				
授業概要					
生活支援技術の根拠となるからだの構造と機能を学び、介護サービスの提供における安全への留意点と心理的側面への配慮について理解する。					
狙いと到達目標					
・身体各部の名称を理解し、介護の場面で使うことができる。 ・こころのしくみとはたらきを理解し、介護場面での相互理解ができる。 ・移動に関するからだのしくみが理解できる。 ・移動に関する生活支援技術を安全に提供するための根拠が理解できる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
看護師として学んだ基礎医学の知識を介護職に必要な知識・技術につながるような授業にしたい。					
授業計画・内容					
1	身体各部の名称を自分の体を通して覚える。 小テスト				
2	主な骨と関節について名称とはたらきを覚える。 小テスト				
3	主な骨格筋の名称とはたらきを覚える。 小テスト				
4	移動の必要性和ところへの影響を理解する。基本的な姿勢について理解する。				
5	人の自然な動きを認識し、ボディメカニクスの基本原理を体験を通して理解する。				
6	座位、立ち上がり、立位の自然な動きを体験し理解する。 グループワーク				
7	仰臥位、側臥位、座位、立位、歩行の自然な動きを体験し理解する。グループワーク				
8	廃用症候群、褥瘡について理解する。				
9	身体機能の低下による影響について理解し、移動時の観察のポイントを理解する。				
10	呼吸器の構造とはたらきを理解する。 小テスト				
11	循環器、血管、リンパの構造とはたらきを理解する。 小テスト				
12	脳、神経の構造とはたらきを理解する。 小テスト				
13	人間の欲求、脳とこころについて理解する。				
14	適応と適応機制について事例を通して理解する。				
15	科目認定試験				
評価方法	構造については、その都度小テストを行う。小テストと科目認定試験を合わせて評価する。				
自由記述 (メッセージ)	「生活支援技術」「発達と老化の理解」「認知症の理解」「障害の理解」「医療的ケア」を理解する上での基礎になります。難しい漢字が出てきますが読める、書けるようにしましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	こころとからだのしくみⅡ		必修	1年後期	15コマ30時間
担当教員	善平弘子	背景	看護師職歴9年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ				
授業概要					
生活支援技術の根拠となるからだの構造と機能を学び、介護サービスの提供における安全への留意点と心理的側面への配慮について理解する。					
狙いと到達目標					
・食事に関するからだのしくみとはたらきが理解できる。 ・食事に関する技術を安全に行うための根拠が理解できる。 ・身じたくに関するからだのしくみとはたらきが理解できる。 ・身じたくに関する生活支援技術を安全に行うための根拠が理解できる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
看護師として学んだ基礎医学の知識を介護職に必要な知識・技術につながるような授業にしたい。					
授業計画・内容					
1	栄養の基本を理解し、食事に関連したこころのしくみを理解する。				
2	消化器系の構造とはたらきを理解する。 小テスト				
3	ビスケット演習を通して食べるしくみを理解する。 レポート				
4	食べる姿勢、食事形態、治療食について理解する。				
5	心身機能が食事に及ぼす影響について理解する。				
6	口腔ケアの重要性を理解する。 小テスト				
7	食事の観察ポイントを理解する。脱水、摂食嚥下障害について理解する。				
8	誤嚥、窒息時の原因と対応について理解する。				
9	爪の構造とはたらきを理解する。爪切りの基本を理解する。 小テスト				
10	毛髪の構造とはたらきを理解する。毛髪の手入れについて理解する。小テスト				
11	顔、耳、鼻の構造とはたらきを理解する。 小テスト				
12	眼の構造とはたらきを理解する。主な眼の病気を理解する。 小テスト				
13	衣服の着脱の意義、衣服の選択について理解する。				
14	衣服の着脱の自然な動きを体験し、状態に応じた着脱を理解する。				
15	科目認定試験				
評価方法	構造については、その都度小テストを行う。小テストと科目認定試験を合わせて評価する。				
自由記述 (メッセージ)	「生活支援技術」「発達と老化の理解」「認知症の理解」「障害の理解」「医療的ケア」を理解する上での基礎になります。むずかしい漢字が出てきますが読める、書けるようにしましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	こころとからだのしくみⅢ		必修	1年後期	15コマ30時間
担当教員	善平弘子	背景	看護師職歴9年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ				
授業概要 生活支援技術の根拠となるからだの構造と機能を学び、介護サービスの提供における安全への留意点と心理的側面への配慮について理解する。					
狙いと到達目標 ・排泄に関するからだのしくみとはたらきが理解できる。 ・排泄に関する技術を安全に行うための根拠が理解できる。 ・清潔に関するからだのしくみとはたらきが理解できる。 ・清潔に関する生活支援技術を安全に行うための根拠が理解できる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 看護師として学んだ基礎医学の知識を介護職に必要な知識・技術につながるような授業にしたい					
授業計画・内容					
1	排泄にかかわるこころのしくみについて事例を紹介しながら理解する。				
2	泌尿器系の構造とはたらき、排尿のしくみを理解する。 小テスト				
3	消化器系の構造とはたらき、排便のしくみを理解する。 小テスト				
4	認知機能の低下、運動機能の低下をしている人への排泄介助の基本を理解する。				
5	排尿障害について理解する。				
6	排便障害について理解する。				
7	排泄に関する変化への対応を理解する。				
8	皮膚の構造とはたらきを理解する。 小テスト				
9	発汗のしくみ、皮膚の汚れについて理解する。				
10	入浴による心身への影響を理解する。				
11	安全な入浴のための観察について理解する。				
12	心身機能低下がみられる人の入浴について理解する。①				
13	心身機能低下がみられる人の入浴について理解する。②				
14	入浴時の事故と対応について理解する。				
15	科目認定試験				
評価方法	構造については、その都度小テストを行う。小テストと科目認定試験を合わせて評価する。				
自由記述 (メッセージ)	「生活支援技術」「発達と老化の理解」「認知症の理解」「障害の理解」「医療的ケア」を理解する上での基礎になります。むずかしい漢字が出てきますが読める、書けるようにしましょう				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	こころとからだのしくみⅣ		必修	2年前期	15コマ30時間
担当教員	平山純子	背景	看護師職歴8年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ 中央法規				
授業概要					
「休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ」と「人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ」の2つの領域を学習する。それぞれの基本的なこころとからだのしくみを理解する。					
狙いと到達目標					
「休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ」と「人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ」を理解し、その根拠をもとに生活支援技術にいかすことができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
人体のしくみのメカニズムを睡眠、人生の最終段階、そして死についてわかりやすく学習できるようにする。					
授業計画・内容					
1	休息・睡眠のしくみ ①睡眠の役割				
2	休息・睡眠のしくみ ②睡眠のしくみ				
3	休息・睡眠のしくみ ③睡眠の質を高める				
4	心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響 ①加齢における				
5	心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響 ②睡眠障害				
6	観察のポイント 医療職との連携のポイント				
7	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方 ①死のとらえ方				
8	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方 ②終末期				
9	加齢にともなう自然な死の理解				
10	看取りにかかわる人の価値観				
11	「死」に対するこころの理解				
12	終末期(ターミナル期)	②死後のからだの理解			
13	終末期(ターミナル期)	②死後のからだの理解			
14	まとめ				
15	科目認定試験において60点以上で合格				
評価方法	科目認定試験において60点以上で合格				
自由記述 (メッセージ)	「睡眠」のメカニズムを理解することで、睡眠が生活に及ぼす影響がみえてきます。 「人生の最終段階」では「死」についても学びます。利用者がどう生きたいのか、その支援を考えていきます。自分自身の「死生観」も求められます。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	医療的ケアⅠ		必修	1年後期	15コマ30時間
担当教員	主担当 倉持有希子		背景	看護職10年	
授業形態	講義・演習		実務家教員 である		
受講ルール	共通ルール＋実習者ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	建帛社 介護福祉士養成課程・介護職等のための医療的ケア				
授業概要					
介護福祉士が行う医療的ケアの根拠と基礎を理解する。					
狙いと到達目標					
・介護福祉士が行う医療的ケアの意義・目的を理解する。 ・介護福祉士として医療的ケアを実施する時の倫理・態度を理解する。 ・医療的ケアに関する主な保険医療制度について理解する。 ・清潔・不潔の概念を理解し、感染対策の基本を実践できる。 ・医療的ケアにおけるリスクマネジメントの基本を理解する。					
授業において実務経験をどのように生かすか 知識に基づいた基本的技術について、確実に行えるよう指導する。					
授業計画・内容					
1	介護における医療的ケアの意義と目的(1) 生活支援の中での医療的ケアを考える。				
2	介護における医療的ケアの意義と目的(2) 医療的ケア導入までの背景を学ぶ。				
3	介護の倫理と医療の倫理について学ぶ。				
4	医療的ケアを必要とする利用者と家族の気持ちを理解する。				
5	保健医療制度とチーム医療(1) 保健医療に関する制度、医行為に関する法律を学ぶ。				
6	保健医療制度とチーム医療(2) チーム医療と介護職員の連携について学ぶ。				
7	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施(1) リスクマネジメントについて学ぶ。				
8	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施(2) ヒヤリハット、アクシデントを学ぶ。				
9	救急蘇生法について理解する。				
10	清潔保持と感染予防(1) 感染予防、職員の感染予防、消毒方法について学ぶ。				
11	清潔保持と感染予防(2) 演習 滅菌と消毒(消毒と滅菌) セッションの使い方、滅菌手袋のはめ方について学ぶ。				
12	清潔保持と感染予防(3) 演習 療養環境の清潔 消毒液の作り方 について学ぶ。				
13	健康状態の把握 平常状態について 観察 急変状態について学ぶ。				
14	健康状態の把握(3) 演習 観察・バイタルサイン について学ぶ。				
15	科目認定試験				
評価方法	○ レポート点 10% ○ 筆記試験 90% *筆記試験は100点満点で90点以下の場合、再試験とする。				
自由記述 (メッセージ)	医療的ケアはこれからの生活支援に欠かせない内容です。基本的知識と技術を しっかり身に付けましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	医療的ケアⅡ		必修	2年前期	15コマ30時間
担当教員	小針 臣子	背景	看護師 教育歴7年		
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール＋実習着ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	建帛社 介護福祉士養成課程・介護職のための医療的ケア 参考:最新介護福祉養成講座11 こころとからだのしくみ 中央法規出版 配布資料あり				
授業概要					
高齢者及び障害児・者の喀痰吸引について、医行為であることを踏まえて、安全・適切に実施できるよう、実施の根拠となる知識・技術を身につける。 医療的ケアを受ける利用者、家族をイメージできる。					
狙いと到達目標					
・喀痰吸引を安全に実施するために必要な基本的な知識を理解する。 ・喀痰吸引が必要な利用者、家族の背景、心理を理解し「人」に実施することをイメージしながら、介護福祉職としての行動・言動を考えることができる。 ・喀痰吸引を安全に手順通りに行うことができるよう映像・ミニ演習を通しい理解する。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
・医療的な技術を安全に行うために、現場での実践の具体的な内容を伝え、介護福祉職として命に関わる行為を行う自覚を育てるために経験を生かす。 ・医療的ケアを受ける利用者や家族の現状を伝え、具体的なイメージができるように経験を生かす。					
授業計画・内容					
1	呼吸のしくみとはたらき				
2	正常な呼吸状態といつもと違う呼吸状態				
3	痰を出しやすくするケアと喀痰吸引				
4	人工呼吸療法とは 人工呼吸療法者の生活				
5	吸引により生じる危険 対応と事前対策				
6	吸引に用いる器具・器材の取扱い方法			ミニ演習	
7	喀痰吸引の演習チェックリストの理解				
8	口腔内吸引の手順・根拠・留意点				
9	口腔内吸引 吸引チューブの取り扱い			ミニ演習	
10	鼻腔内吸引 鼻腔内への吸引チューブの挿入について			ミニ演習	
11	気管カニューレ内部吸引の手順・根拠・留意点				
12	気管カニューレ内部吸引 滅菌吸引チューブの取扱い			ミニ演習	
13	吸引に関連した呼吸器系の感染と予防				
14	子供の吸引 家族への対応				
15	科目認定試験				
評価方法	科目認定試験において90点以下は教育的再試験				
自由記述 (メッセージ)	医療的ケアを実施する介護福祉職として信頼されるよう知識・技術・心遣いを身につけ、考えられるようになりましょう。 医療的ケアⅣ喀痰吸引の演習につながるよう学習してください。				

実務家教員

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	医療的ケアⅢ		必修	2年後期	15コマ30時間
担当教員	倉持有希子	背景	YMCA教員歴22年		
授業形態	講義・演習	実務家教員である			
受講ルール	共通ルール＋実習者ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	建帛社 介護福祉士養成課程・介護職のための医療的ケア				
授業概要					
高齢者および障害児・者への経管栄養について、医行為であることを踏まえて、安全・適切に実施できるよう、実施の根拠となる知識・技術を身につける。					
狙いと到達目標					
・経管栄養を安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 ・経管栄養に関する、基本的知識と技術が結びつくよう、映像、ミニ演習を通して理解する。 ・喀痰吸引等の必要な人の生活支援について考察できる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
・医療に関連する技術を安全に行うために経験を生かす。					
授業計画・内容					
1	基本の復習：消化器系のしくみとはたらき、自立に向けた食事の介護を復習する。				
2	経管栄養とは： 経管栄養の必要な状態、経管栄養の種類について学ぶ。				
3	経鼻経管栄養の技術と留意点① 喀痰吸引等の実施体制について理解する。 映像を確認し全体の流れをイメージする。				
4	経鼻経管栄養の技術と留意点② 映像とチェックリストから方法と根拠を理解する。				
5	経鼻経管栄養ミニ演習① 実習室で物品に触れ、基本的な方法と根拠を一致させる。				
6	経鼻経管栄養ミニ演習② 実習室で物品に触、基本的な方法と根拠を一致させる。				
7	ミニ演習振り返り 子どもの経管栄養 子どもの経管栄養の特徴と留意点について学習する。				
8	半固形栄養剤 半固形栄養剤の使用目的、メリット等について理解する。				
9	経管栄養が必要な人の生活支援 事例を通して喀痰吸引等が必要な人の生活支援を考える				
10	胃ろうによる経管栄養の技術と留意点② 映像とチェックリストから方法と根拠を理解する。				
11	胃ろう・腸ろう演習① 経管栄養の技術と留意点について実際に必要物品に触れながら理解する。				
12	胃ろう・腸ろう演習② 経管栄養の技術と留意点について実際に必要物品に触れながら理解する。				
13	急変・事故発生時の対応と事前対策① 講義、グループワーク				
14	急変・事故発生時の対応と事前対策② グループ発表				
15	科目認定試験				
評価方法	ミニ演習2回はレポートあり。 科目認定試験において90点以下は再試験とする。				
自由記述 (メッセージ)	こころとからだのしくみや生活支援技術の「食事」を振り返りながら、経管栄養について学びを深めていきます。生活支援の一部として学びを深めていきましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	医療的ケアⅣ		必修	2年後期	30コマ・60時間
担当教員	主担当 倉持有希子		背景		
授業形態	演習	実務家教員 医療的ケア教員講習受講者、看護師			
受講ルール	共通ルール＋実習者ルール				
受講条件	医療的ケアⅠ～Ⅲが修了している者				
教科書等	建帛社 介護福祉士養成課程・介護職等のための医療的ケア				
授業概要					
医療的ケアの講義で学んだ知識・技術やミニ演習を踏まえ、シュミレーターを用いて喀痰吸引や経管栄養の技術を、安全かつ利用者本位の方法で実施する。					
狙いと到達目標					
項目 ①経鼻経管栄養 ②胃ろう・腸ろう栄養 ③口腔内吸引 ④鼻腔内吸引 ⑤気管カニューレ内部吸引					
到達目標					
・必要物品について、全ての行程で清潔を保持し安全に使用できるよう整える。 ・安全かつ適切な方法で演習する。 ・障害の特性に応じたコミュニケーションをとる。 ・全ての行程で利用者本位に行う。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
基本的な技術を、安全な方法で確実に行えるようにする。					
授業計画・内容					
1 経鼻経管栄養 デモンストレーション			16 演習③		
2 演習①			17 演習④		
3 演習②			18 演習⑤(テスト)		
4 演習③			19 鼻腔内吸引 デモンストレーション		
5 演習④			20 演習①		
6 演習⑤(テスト)			21 演習②		
7 胃ろう・腸ろう栄養 デモンストレーション			22 演習③		
8 演習①			23 演習④		
9 演習②			24 演習⑤(テスト)		
10 演習③			25 気管カニューレ内部吸引 デモンストレーション		
11 演習④			26 演習①		
12 演習⑤(テスト)			27 演習②		
13 口腔内吸引 デモンストレーション			28 演習③		
14 演習①			29 演習④		
15 演習②			30 演習⑤(テスト)		
評価方法		5回目にテストを行い1つでもミスがあった場合、再試験とする。 一人の演習時間は20分以内とする。			
自由記述 (メッセージ)		それぞれの5回目のテストに合格するための準備 ・医療的ケアⅠの感染予防の演習(滅菌手袋の取り扱い方など)を復習しましょう。 ・医療的ケアⅡとⅢのチェックリストを正確に理解しましょう。 ・ミニ演習の内容を復習しましょう。			